

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月27日

【事業年度】 第154期(自平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 株式会社明電舎

【英訳名】 MEIDENSHA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 三井田 健

【本店の所在の場所】 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower

【電話番号】 03 - 6420 - 8150(代表)

【事務連絡者氏名】 総務部 文書株式課長 山田 英毅

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower

【電話番号】 03 - 6420 - 8150

【事務連絡者氏名】 総務部 文書株式課長 山田 英毅

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第150期	第151期	第152期	第153期	第154期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	216,176	230,299	237,404	220,141	241,832
経常利益 (百万円)	7,790	10,502	10,595	8,209	9,992
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	6,580	6,868	6,962	5,743	7,056
包括利益 (百万円)	10,011	11,612	3,886	7,426	9,609
純資産額 (百万円)	60,607	67,405	68,771	74,312	81,229
総資産額 (百万円)	248,379	255,519	255,024	247,646	264,457
1株当たり純資産額 (円)	262.50	291.35	297.64	322.80	353.65
1株当たり当期純利益 金額 (円)	29.00	30.27	30.68	25.31	31.10
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	24.0	25.9	26.5	29.6	30.3
自己資本利益率 (%)	11.3	10.9	10.4	8.2	9.2
株価収益率 (倍)	15.8	12.8	16.7	15.6	13.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	18,239	11,165	22,597	11,840	17,975
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	11,316	8,772	10,530	12,031	7,582
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,873	5,282	5,847	3,767	11,230
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	11,117	8,671	14,438	10,008	9,236
従業員数 (名)	8,047	8,173	8,408	8,474	8,995

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 従業員数は、就業人員数を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第150期	第151期	第152期	第153期	第154期
決算年月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月	平成30年 3月
売上高 (百万円)	171,219	167,678	165,973	148,371	164,487
経常利益 (百万円)	4,825	5,166	5,530	3,696	5,875
当期純利益 (百万円)	4,922	3,050	3,728	3,425	5,413
資本金 (百万円)	17,070	17,070	17,070	17,070	17,070
発行済株式総数 (千株)	227,637	227,637	227,637	227,637	227,637
純資産額 (百万円)	59,761	61,057	60,211	63,328	67,732
総資産額 (百万円)	212,481	212,873	208,079	203,447	215,249
1株当たり純資産額 (円)	263.36	269.09	265.38	279.13	298.55
1株当たり配当額 (うち、1株当たり 中間配当額) (円)	6.00 (-)	7.00 (-)	8.00 (4.00)	8.00 (4.00)	9.00 (4.00)
1株当たり当期純利益 金額 (円)	21.69	13.44	16.43	15.10	23.86
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	28.1	28.7	28.9	31.1	31.5
自己資本利益率 (%)	8.6	5.0	6.1	5.5	8.3
株価収益率 (倍)	21.1	28.9	31.2	26.2	17.0
配当性向 (%)	27.7	52.1	48.7	53.0	37.7
従業員数 (名)	3,517	3,696	3,681	3,695	3,769

- (注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。  
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
3. 従業員数は、就業人員数を記載しております。

## 2 【沿革】

明治30年12月	個人経営の電気機械工場として発足
45年2月	大崎工場を創設
大正6年6月	個人経営を資本金2,000千円の株式会社に組織変更
昭和10年10月	名古屋工場を創設
24年5月	東京・大阪・名古屋の各証券取引所に株式を上場
24年6月	福岡証券取引所に株式を上場
25年3月	(株)甲府明電舎を発足
26年11月	(株)ユニオンワニス設立(昭和56年10月ユニオン化成(株)に、平成4年4月明電ケミカル(株)に社名変更)
32年4月	広島・札幌の両証券取引所に株式を上場
33年5月	京都証券取引所に株式を上場
36年4月	沼津工場を創設
40年4月	明電エンジニアリング(株)を設立
41年6月	THAI MEIDENSHA CO., LTD. を設立
47年11月	明電興産(株)を設立
50年5月	MEIDEN SINGAPORE PTE .LTD. を設立
52年4月	太田工場を創設
53年12月	明電プラント(株)を設立
56年10月	明電鋳工(株)を設立
62年6月	英文社名をMEIDENSHA CORPORATIONに変更
62年7月	明電商事(株)を設立
63年5月	北斗電工(株)の株式取得
平成元年11月	MEIDEN QUARTZ(M)SDN. BHD. を設立
5年2月	明電エンジニアリング(株) 東証二部に上場
6年3月	明電システムエンジニアリング(株)を設立
7年2月	本社事務所を東京都中央区に移転
7年9月	明電エンジニアリング(株) 東証二部から一部へ指定替え
10年3月	MEIDEN ELECTRIC(THAILAND)LTD. を設立
10年12月	明電板金塗装(株)を設立
11年4月	明電ホイスシステム(株)を設立
12年3月	明電通信工業(株)を台湾シワード社へ株式譲渡、MEIDEN QUARTZ(S)PTE . LTD. 及びMEIDEN QUARTZ(M)SDN. BHD. をドイツヨーヒ社へ株式譲渡
12年7月	明電興産(株)が、沼津明電興産(株)及び明電不動産(株)の2社を吸収合併
12年7月	当社、(株)日立製作所及び富士電機(株)の3社間で、開発合弁会社「ジャパンモータアンドジェネレータ(株)」を設立

- 13年 7月 当社、(株)日立製作所及び富士電機(株)の3社間で、製造合弁会社「(株)日本エーイーパワーステムズ」を設立(平成14年10月に(株)日本AEパワーステムズに商号変更)
- 13年10月 明電ソフトウェア(株)が、明電情報システム(株)の営業の全部を会社分割により承継
- 14年 5月 甲府工場を創設
- 14年10月 変圧器、遮断器、開閉装置など変電事業を(株)日本AEパワーステムズに会社分割
- 14年10月 装置部門を名古屋工場から沼津工場へ移転・移管
- 14年11月 明電ホイスシステム(株)にKCIコネ・クレーンズ・インターナショナル社が資本参加(平成15年4月に資本金4億円に増資)
- 14年11月 当社と明電エンジニアリング(株)の間で合併契約書調印
- 15年 4月 明電エンジニアリング(株)と合併し、エンジニアリング事業本部を設置
- 15年 8月 札幌証券取引所・福岡証券取引所への株式上場を廃止
- 18年 4月 当社と(株)甲府明電舎(株)山梨明電産業に商号変更)とが共同新設分割により(株)甲府明電舎を設立
- 19年 9月 東京都品川区の当社大崎工場跡地にThinkPark Towerを完成させ、本社を移転
- 20年 3月 明電ホイスシステム(株)の当社保有株式の一部をKCIコネ・クレーンズ・インターナショナル社に譲渡(平成20年7月にMHSコネクレーンズ株式会社に商号変更)
- 20年10月 沼津事業所隣地に工場用土地・建物(旧ジャトコ沼津工場)を取得
- 21年 4月 明電シスコ(株)の配電盤製作部門を、明電プラント&エンジニアリング(株)が吸収分割し、商号を明電プラントシステムズ(株)に変更
- 22年 6月 MHSコネクレーンズ株式会社の当社保有株式の全てをKCIコネ・クレーンズ・ファイナンス社に譲渡
- 24年 4月 (株)日本AEパワーステムズにおける合弁事業を解消し、明電T&D(株)が事業の一部を承継
- 25年 3月 明電鋳工(株)を解散
- 25年 4月 明電T&D(株)と合併  
明電板金塗装(株)と明電シスコ(株)が合併し、明電システム製造(株)を設立  
明電ソフトウェア(株)と明電システムテクノロジー(株)が合併し、明電システムソリューション(株)を設立
- 25年 7月 (株)明電エンジニアリング、(株)明電エンジニアリング東日本、(株)明電エンジニアリング中日本、(株)明電エンジニアリング西日本を設立
- 25年10月 当社の保守・サービス事業を吸収分割し、(株)明電エンジニアリング、(株)明電エンジニアリング東日本、(株)明電エンジニアリング中日本、(株)明電エンジニアリング西日本が承継  
MSA(株)を吸収合併
- 26年 3月 Prime Electric社に資本参加(平成26年5月にPrime Meiden Ltd.に商号変更)
- 26年 6月 明電環境サービス(株)とメックテクノ(株)が合併し、明電ファシリティサービス(株)を設立  
(株)メイフィス、明電ITシステムズ(株)、明電システムエンジニアリング(株)を吸収合併
- 27年 6月 保守・サービス事業を、(株)明電O&M及び(株)明電エンジニアリングの2社に再編
- 27年 6月 TRIDELTA GmbHからTRIDELTA社を買収(平成27年7月にTRIDELTA MEIDENSHA GmbHに商号変更)
- 28年 6月 Prime Meiden Ltd.の株式を追加取得

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び国内子会社23社、国内関連会社4社、海外子会社20社の合計48社で構成され、社会インフラ事業、産業システム事業、保守・サービス事業、不動産事業、その他事業の5事業分野にわたって、製品の企画・開発から製造、販売、サービス等の事業活動を幅広く展開しております。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

#### 社会インフラ事業 32社

社会インフラの構築に関連する事業です。電力品質や省エネルギー等に関する各種ソリューションサービスや、電力会社・官公庁・鉄道・道路・民間施設等の分野に発電・送電・変電・配電などに関する各種電気機器の製造・販売を行っております。

また、自治体の上下水道分野には各種処理装置とそのプロセス制御、情報通信網の整備等に関する製品の製造・販売を行うほか、浄水場の維持管理業務受託や廃棄物リサイクル等、環境に関するソリューションサービスを展開しております。

##### ・主な関係会社

明電プラントシステムズ(株)、明電システム製造(株)、明電システムソリューション(株)、MEIDEN SINGAPORE PTE.LTD.、THAI MEIDENSHA CO.,LTD.、明電舎(鄭州)電気工程有限公司

#### 産業システム事業 4社

製造業やITなど一般産業で使用される製品システムに関連する事業です。民間産業分野に自動車試験用システム、物流システム等を提供するほか、繊維機械やエレベータ等の製品用途向けにモータやインバータなどの電動応用製品の製造・販売を行っております。

また、情報・通信分野では産業用コンピュータやネットワークシステムなどコンポーネント製品の製造・販売を行っております。

##### ・主な関係会社

(株)甲府明電舎、明電舎(杭州)電気系統有限公司、MEIDEN AMERICA, INC.

#### 保守・サービス事業 5社

当社納入製品のメンテナンスを中心として、設備の長寿命化や省エネルギー対策などの提案、設備遠隔監視などのサービスを提供するほか、半導体製造装置のメンテナンス・中古機再生事業を行っております。

##### ・主な関係会社

(株)明電O&M、(株)明電エンジニアリング、明電ファシリティサービス(株)

#### 不動産事業

ThinkPark Tower(東京都品川区大崎)をはじめとする保有不動産の賃貸を行っております。

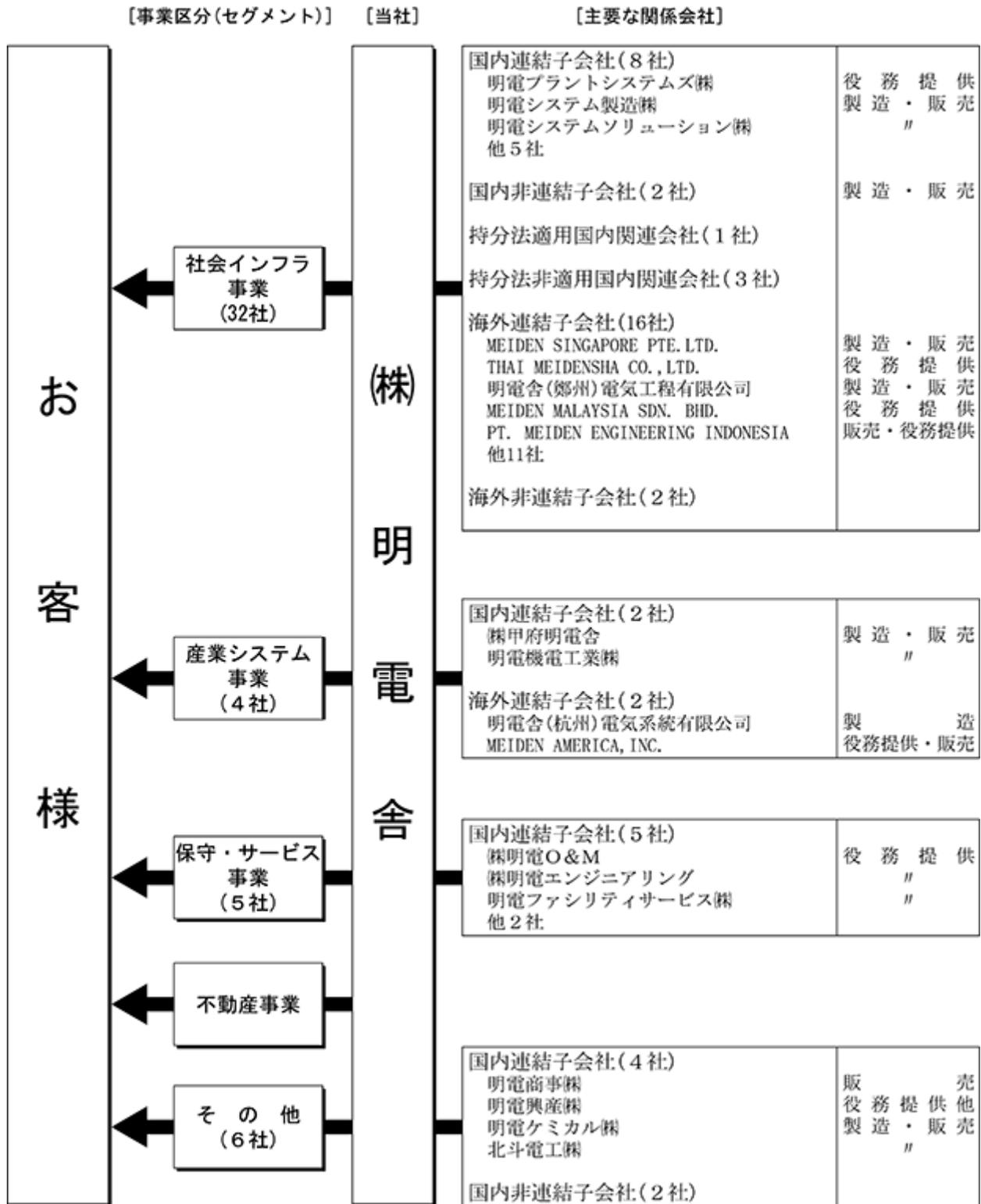
#### その他 6社

事業分野を問わない製造・販売会社、従業員の福利厚生サービス、化成製品の製造・販売等が含まれておりません。

##### ・主な関係会社

明電商事(株)、明電興産(株)、明電ケミカル(株)、北斗電工(株)

(事業系統図) 以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

平成30年3月末日時点の関係会社の状況は以下のとおりであります。

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合又は 被所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) ㈱甲府明電舎 (注)3	山梨県 中央市	400	産業システム 事業	100.00	各種モータの製造、販売 役員 兼任 建物賃貸
明電プラントシステムズ㈱	東京都 品川区	400	社会インフラ 事業	100.00	当社の電気及び建設工事の設計・請 負、電気機器等の製造・修理・改造 役員 兼任 建物賃貸
㈱明電エンジニアリング (注)4	東京都 品川区	400	保守・サービ ス事業	100.00 (100.00)	電気設備、機械器具、装置の製造・ 販売、賃貸借、設置、電気配線工事 及び保守点検サービス、改造、修理 に関するメンテナンス 役員 兼任
㈱エムウインズ	東京都 品川区	330	社会インフラ 事業	100.00	風力発電事業に関する業務 役員 兼任
明電商事㈱	東京都 品川区	300	その他	100.00	電気機器、電子機器等の販売 役員 兼任
明電興産㈱	東京都 品川区	100	その他	100.00	物品、物資の販売、保険代理業 役員 兼任 建物賃貸借
㈱明電O & M	東京都 品川区	100	保守・サービ ス事業	100.00	電気設備、機械器具、装置の製造・ 販売、賃貸借、設置、電気配線工事 及び保守点検サービス、改造、修理 に関するメンテナンス、事業活動の 戦略立案、統括管理及び教育 役員 兼任
明電ケミカル㈱	静岡県 沼津市	95	その他	100.00	当社製品の部品の製造 役員 兼任 建物賃貸
明電システム製造㈱	静岡県 沼津市	90	社会インフラ 事業	100.00	当社製品の板金加工品及びその部品 の製造並びに販売、各種高低圧配電 盤の設計・製造・販売、継電器の製 造 役員 兼任 建物、機械装置賃貸 資金貸付有
明電システムソリューション㈱	静岡県 沼津市	50	社会インフラ 事業	100.00	ソフトウェアの製作・販売並びに賃 貸、コンピュータシステム及びネッ トワークの維持並びに運営の管理、 コンピュータシステム及びその関連 機器の販売並びに賃貸、情報システ ムの設計、調査、開発並びにコンサル ティング、教育 役員 兼任 建物賃貸 資金貸付有
MEIDEN ASIA PTE. LTD. (注)3	シンガポール	百万S\$ 35	社会インフラ 事業	100.00	アセアン地域統括会社 アセアン地域事業戦略策定、法務、 人事、IT、メンテナンス、技術エン 지니어リングサービス、資材、R&D など 役員 兼任
MEIDEN SINGAPORE PTE.LTD. (注)3	シンガポール	百万S\$ 25	社会インフラ 事業	100.00 (100.00)	変圧器、配電盤、遮断器の製造、 販売 役員 兼任
THAI MEIDENSHA CO.,LTD.	タイ	百万TB 30	社会インフラ 事業	75.50 (73.50)	電気工事、技術コンサルティング 役員 兼任
MEIDEN AMERICA, INC. (注)3	米国	百万US\$ 21	産業システム 事業	100.00	ダイナモ製品のシステムエンジニア リング 役員 兼任
明電舎(杭州)電気系統有限公司 (注)3	中国	百万US\$ 19	産業システム 事業	100.00	モータ・インバータの製造 役員 兼任
TRIDELTA MEIDENSHA GmbH	ドイツ	千€ 78	社会インフラ 事業	100.00	電力・電鉄用避雷器及び避雷器用付 属品の製造・販売 役員 兼任
Prime Meiden Ltd. (注)3	インド	百万 インドルピー 1,161	社会インフラ 事業	68.00	変圧器製造・販売及びエンジニアリ ング 役員 兼任
その他 20社					

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合又は 被所有割合(%)	関係内容
(持分法適用関連会社)  イームル工業㈱	広島県 東広島市	50	社会インフラ 事業	33.00	電気機器、電気材料、各種原動機、 水処理装置及び土木機器の設計、製 作、販売、修理、工事の請負、電気 機械器具製品のリース、レンタル、 修理及び再生加工、水力発電所の管 理、運営、保守、修理の受託 出資

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。  
2. 子会社の議決権に対する所有割合欄の下段( )内数値は、間接所有割合で内数であります。  
3. 特定子会社であります。  
4. (株)明電エンジニアリングについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	28,864	百万円
	経常利益	3,381	"
	当期純利益	2,313	"
	純資産額	3,778	"
	総資産額	20,649	"

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

(平成30年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
社会インフラ事業	4,456
産業システム事業	995
保守・サービス事業	1,668
不動産事業	-
その他	942
全社(共通)	934
合計	8,995

(注) 従業員数は就業人員数であります。

### (2) 提出会社の状況

(平成30年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
3,769	43.4	18.6	7,186,313

セグメントの名称	従業員数(名)
社会インフラ事業	1,813
産業システム事業	562
保守・サービス事業	16
不動産事業	-
その他	444
全社(共通)	934
合計	3,769

(注) 1. 平均年間給与(税込)には、賞与、時間外勤務手当及び基準外賃金等を含んでおります。  
2. 従業員数は嘱託444名を含み、出向者464名・パート他36名・休職39名は除いた就業人員数であります。  
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

平成30年3月31日現在、当社グループで労働組合を組織している会社は、当社及び㈱甲府明電舎、明電ケミカル㈱、明電システムソリューション㈱のあわせて4社であり(組合員数3,825名)、これらの会社で明電関連労組協議会を組織しております。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループの企業理念は、「より豊かな未来をひらく」ことを企業使命とし、「お客様の安心と喜びのために」を提供価値としております。当社グループは、より豊かで住みよい未来社会の実現に貢献するため、新しい技術と価値の創造にチャレンジし続けるとともに、お客様の安心と喜びのために、環境への配慮と丁寧なサポートを徹底し、品質の高い製品・サービスを通じてお客様の課題解決や夢の実現をお手伝いします。

#### (2) 会社の対処すべき課題

当社グループを取りまく環境と課題の認識

国内市場につきましては、人口減少などにより新規需要が減少する一方で、設備老朽化による更新・延命化需要、省エネルギー化などのニーズは堅調です。とりわけ、公共分野では、広域化や官民連携など自治体インフラサービスの形態の多様化が推進されています。

海外市場につきましては、アジアを中心とする新興国では、人口増加や都市化などにより、電力・鉄道・上下水道などのインフラ需要は拡大基調にあります。

また、環境規制強化やクルマの電動化・デジタル化、IoT・AIの技術発展などといった世界的潮流は、当社グループにとって事業拡大の好機であり、その動向を見極めて、迅速に対応していく必要があります。

#### 基本方針

当社グループは、前中期経営計画「V120」において、『製品競争力の強化』『国内事業の収益基盤強化』『海外事業の成長拡大』の基本方針のもと、一定の成果を挙げることができました。

「中期経営計画2020」（2018～2020年度）においては、更なる飛躍に向けた『力強いステップ』を踏むフェーズとして、設備・人財・研究開発・パートナーシップ強化などの投資・施策を積極的に行ってまいります。

最適なりソース配分を図るため、事業領域を次のとおり分類し、戦略を実行してまいります。

海外事業、自動車関連事業など、市場の更なる拡大が見込まれる事業を『成長事業』と位置付け、積極的にリソースを投入することにより、事業の規模拡大を目指してまいります。

水処理・公共インフラ事業、電力・再生エネルギー事業、保守・サービス事業など、安定的な収益基盤となる事業を『収益基盤事業』と位置付け、ビジネスモデルの変革、生産性の向上による収益力強化を図ってまいります。

また、『新たな成長事業』として、更なる市場拡大が期待できる半導体製造装置向け事業の規模拡大に向けた投資を行うとともに、新規事業の創出を図ってまいります。

以上の方針のもと、更なる企業価値の向上を目指し、積極的な投資を行うと同時に、収益力の強化に取り組んでまいります。

#### 重点施策

##### 成長事業戦略

海外電力分野においては、V120から取り組んでいる、東南アジア現地企業とのパートナーシップを更に進め、現地の電力市場への参入を実現してまいります。また、欧米市場においては、真空遮断器や避雷器など特長製品の拡大に注力します。更に、連結子会社化したインドの変圧器製造会社Prime Meiden Ltd.を中心に、インド国内の電力会社への参入、インド以西への進出などの戦略を加速してまいります。

海外鉄道分野では、シンガポール南北線・東西線更新事業をはじめとする大型プロジェクト案件を完遂するとともに、都市交通や高速鉄道案件プロジェクト等、今後の旺盛な需要に対応できるよう、体制強化を図ってまいります。

自動車関連分野においては、EV用モータ・インバータ増産対応の設備投資、開発人財の増強により、新たな量産案件の受注獲得を実現してまいります。また、動力計測事業においては、パートナーシップ戦略を推進し、クルマの電動化・デジタル化、モデルベース開発に対応したエンジニアリング力の強化を図るとともに、EV用モータ・インバータ事業との相乗効果を発揮してまいります。

##### 収益基盤事業戦略

水処理・公共インフラ事業、電力・再生エネルギー事業においては、非連続的な製品の原価低減、及びビジネスモデルの変革を強力に推進してまいります。当社グループ内に蓄積してきた製品データ、ノウハウをベースに、IoT・AI技術を掛け合わせ、運転管理の自動化・省力化の実用化を目指してまいります。また、自治体によるインフラサービスの広域化やエネルギー・水などの分野横断的な取組み、官民連携など、新たなニーズに対応できる提案力の強化、体制構築を推進してまいります。

民需向け事業においては、高低圧配電盤の大幅な原価低減、保守・サービス事業との連携による営業効率の向上等により、需要の確実な取込みを図ってまいります。

保守・サービス事業においては、ライフサイクル・エンジニアリングを軸としたワンストップサービスを展開してまいります。加えて、IoT・AIを活用した予兆診断技術の高度化による予防保全サービス等、新たな価値を創出し、更なる事業の拡大を図ってまいります。

#### 新たな成長事業戦略

半導体製造装置関連分野においては、引き続き市場の拡大が見込まれており、増産対応の設備投資を継続するとともに、新製品の開発による成長を目指してまいります。

セラミック平膜事業においては、再生水需要の高まり、環境規制の強化により、市場の拡大が見込まれており、他社との協業による営業体制強化を行うことで、事業を拡大してまいります。

また、2017年4月に新設した事業開発部、2017年6月に設置したシリコンバレーオフィスによる活動等により、更なる新規事業の開発を促進してまいります。

#### 生産戦略

「成長事業」、「新たな成長事業」においては、事業の規模拡大・増産に対応した設備投資を行ってまいります。特に、量産製品においては、ロボットを活用した生産自動化、画像処理技術を適用した検査工程の自動化等、生産効率を高めることで、製品競争力を強化してまいります。

「収益基盤事業」においては、システム製品の収益力向上に注力いたします。IoT・AIを用いたスマート工場化や設計自動化等の投資を積極的に行い、生産性向上やリードタイム短縮を図ってまいります。また、海外拠点を含めたサプライチェーンの最適化により、製品競争力を強化してまいります。

#### 人材の育成と働き方改革への対応

事業展開を支える基盤として、人材育成の更なる強化に努めてまいります。技術研修の充実、海外研修センターの活用やナショナルスタッフとの交流等を推進し、次代を担うグループ人材の育成に取り組んでまいります。

「成長事業」においては、海外鉄道プロジェクト案件に携わる現地ナショナルスタッフの育成や、市場拡大が見込まれるEV用モーター・インバータ開発人材の確保・育成に注力してまいります。

「収益基盤事業」においては、自治体によるインフラサービスの広域化や官民連携に対応するため、領域横断的な営業体制の構築、営業人材の育成、及び提案力向上に注力してまいります。

働き方改革への対応につきましては、新たな実行計画として「スマートワーク2020」を策定し、生産プロセス改革や合理化設備の投資、RPAの活用等による生産性向上に注力するとともに、ダイバーシティの実現に向け、柔軟かつ適切な働き方が選択できるよう、育児・介護支援をはじめとする各種施策を展開し、働きやすい環境の整備に努めてまいります。

#### 研究開発戦略

「V120」の成果を引き継ぎつつ、基盤技術・製品技術の更なる強化を行い、次世代を担う新製品・システムを創出してまいります。

海外電力分野・自動車関連分野等の「成長事業」にリソースを集中し、新製品の開発に注力するとともに、「収益基盤事業」については、新たな付加価値を提供すべく、IoT・AI等のデジタル技術を強化してまいります。

また、研究開発のスピードアップを図るため、フロントローディング設計・モデルベース開発などの新しい手法の導入に取り組んでまいります。同時に、シリコンバレーオフィスの活用、更に外部研究機関との連携を強化してオープンイノベーションを推進してまいります。

#### 強固な財務体質の構築

更なる飛躍のために必要な投資を積極的に行ってまいります。同時に、収益性改善による自己資本の充実、資産効率化によるキャッシュ創出力の向上により、強固な財務体質を実現し、持続的な成長に向けた基盤を構築してまいります。また、資金調達が多様化により、財務安定性を確保いたします。

以上を実現するために、財務目標を設定し、グループを挙げて目標達成に向けた体質強化に努めてまいります。

#### コーポレートガバナンスの更なる強化

社外取締役や社外監査役を含めた取締役会の意思決定機能や監督機能の強化を重視し、取締役会の実効性向上に努めております。

今後もコーポレートガバナンス強化に向けた取組みを着実に展開し、株主のみならず適切かつ透明性のある情報開示に努めてまいります。

#### 事業活動基盤の「品質」向上

当社グループは、社会インフラを支える企業として、製品・システム・サービスの継続的な品質向上に取り組んでまいります。加えて、労働災害の撲滅や温室効果ガス排出量削減など、事業活動の基盤となる活動の「品質」向上についても積極的に取り組んでまいります。

これらの活動により、企業スローガン「Quality connecting the next」に込めた想いを実現してまいります。

(当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針)

#### 1. 基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社グループの財務及び事業の内容や当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主のみなさまの共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主全体の意思に基づいて行われるべきものと考えております。また、当社は、当社株式の大量取得であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかしながら、株式の大量取得の中には、その目的等から見て企業価値や株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量取得の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との協議・交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社株式の大量取得を行う者が、当社の企業価値の源泉を理解したうえで、それを中長期的に確保し、向上させられるのであれば、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることになりません。

当社は、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量取得を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量取得に対しては、必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

#### 2. 基本方針の実現に資する特別な取組みの内容の概要

当社グループでは今後も着実に事業を展開していくため、「中期経営計画2020」を推進しております。本中期経営計画においては、更なる飛躍に向けた『力強いステップ』を踏むフェーズとして、設備・人財・研究開発・パートナーシップ強化などの投資・施策を積極的に行ってまいります。

(「中期経営計画」の詳細につきましては、当社の平成30年5月14日付プレスリリースをご参照ください。)

また、当社は執行役員制を導入し、取締役会における意思決定機能・監督機能と執行役員への権限を委譲した業務執行機能を分離させるとともに、取締役会を構成する取締役10名のうち2名を独立性のある社外取締役とすることで、経営の透明性を確保し、取締役会による業務執行に対する監督機能を充実させ、コーポレート・ガバナンスを強化しております。

#### 3. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの内容の概要

当社は、「当社株式の大量取得行為に関する対応策」(買収防衛策)につきまして、平成29年5月12日開催の取締役会及び平成29年6月28日開催の当社第153期定時株主総会の各決議に基づき、その内容を一部改定したうえで更新いたしました。(以下、改定後の買収防衛策を「本プラン」といいます。)

本プランによる、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの具体的内容の概要は、次のとおりであります。

##### (1) 本プランの目的

当社取締役会は、基本方針に定めるとおり、当社の企業価値・株主共同の利益に資さない当社株式の大量取得を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えています。本プランは、こうした不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値・株主共同の利益に反する当社株式の大量取得を抑止するために、当社株式に対する大量取得が行われる際に、当社取締役会が株主のみなさまに代替案を提案すること、あるいは株主のみなさまがかかる大量取得に応じるべきか否かを判断するために必要な情報や時間を確保すること、株主のみなさまのために交渉を行うこと等を可能とすることを目的としております。

##### (2) 本プランの概要

本プランは、以下の若しくはに該当する行為又はこれに類似する行為(これらの提案を含みます。)(当社取締役会が本プランを適用しない旨別途決定したものを除くものとし、以下「買付等」といいます。))がなされる場合を適用対象とします。

当社が発行者である株式等について、保有者の株式等保有割合が20%以上となる買付その他の取得

当社が発行者である株式等について、公開買付けを行う者の株式等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

買付等を行おうとする者（以下「買付者等」といいます。）には、予め本プランに定められる手続に従うものとし、本プランに従い当社取締役会が新株予約権の無償割当ての不実施に関する決議を行い、又は当社株主総会において本新株予約権の無償割当ての実施に係る議案が否決されるまでの間、買付等を実行してはならないものとします。

買付者等は、買付等の開始又は実行に先立ち、本プランの手続を遵守する旨の誓約文言等を含む法的拘束力のある意向表明書及び買付等の内容の検討に必要な所定の情報等を記載した買付説明書を、当社に対して提出していただきます。また、独立委員会は、当社取締役会に対しても、買付等の内容に対する意見や代替案（もしあれば）等の情報を提供するように要求することができます。

独立委員会は、当該買付等の内容の検討、買付者等との協議・交渉等を行い、かかる検討等の結果、当該買付等が本プランに定める手続を遵守しない買付等である場合又は当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある場合等であって、かつ本プランに定める新株予約権の無償割当てを実施することに相当性が存し、本プラン所定の発動事由に該当すると判断した場合には、当社取締役会に対して、買付者等による権利行使は原則として認められないとの行使条件及び当社が買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得できる旨の取得条項が付された新株予約権の無償割当てを実施することを勧告します。他方、独立委員会は、買付者等による買付等が本プラン所定の発動事由に該当しないと判断した場合には、当社取締役会に対して、新株予約権の無償割当てを実施すべきでない旨の勧告を行います。

また、独立委員会による本新株予約権の無償割当ての実施に際して株主総会の承認を得るべき旨の留保を付した場合等、本プラン所定の場合には、株主総会（以下「株主意思確認総会」といいます。）を招集します。

当社取締役会は、株主意思確認総会の決議又は（株主意思確認総会の決議がない場合）独立委員会の上記勧告を最大限尊重して新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等に関する会社法上の機関としての決議を行うものとします。

本プランに従って新株予約権の無償割当てがなされ、その行使又は当社による取得に伴って買付者等以外の株主のみなさまに当社株式が交付された場合には、1個の新株予約権につき、原則として1株の当社株式が発行されることから、買付者等の有する当社の議決権割合は、最大50%まで希釈化される可能性があります。本プランの有効期間は、原則として、平成29年6月28日開催の第153期定時株主総会終結後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとされており。

#### 4. 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社の「中期経営計画2020」及びコーポレート・ガバナンスの強化等の各施策は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに当社の基本方針に沿うものです。

また、本プランは、当社株式に対する買付等がなされた際に、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保するための枠組みであり、基本方針に沿うものです。特に、本プランにつきましては、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を充足していること、第153期定時株主総会において株主のみなさまの承認を得て更新されており、有効期間が約3年間と定められていること、本プランの発動の是非について株主のみなさまの意思の確認がなされることがあること、また当社の株主総会又は取締役会によりいつでも本プランを廃止できるとされていること等、株主のみなさまの意思を重視するものとなっております。また、これらに加え、当社経営陣から独立した弁護士・会計士等の専門家、社外有識者から構成される独立委員会が設置され、本プランの発動等に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で専門家等を利用し助言を受けることができるとされていること等により、その判断の公正さ・客観性が担保されており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

## 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 経済の動向

当社グループが事業活動を行っている日本、アジア、アメリカ、その他の市場において、景気後退により民間設備投資が減少した場合、また、公共事業の削減が行われた場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 法律・規制の変更

当社グループでは、日本国内のほか諸外国に製造・販売拠点等を有しております。各市場においては、下記のような各国の法律・規制等の変更により、完全には回避することが困難なリスクが存在しており、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

- ・輸入規制や関税率の引き上げ等
- ・各国の国内及び国際間取引に係る租税制度の変更等
- ・地域的な雇用環境の変化、労働関連法令の改正等

### (3) 海外事業

当社グループは、アジアとアメリカを中心とする海外市場における事業の拡大を図っております。海外事業においては、それぞれの国や地域において、テロの発生及び政情悪化、商習慣の相違等により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 為替相場の変動

当社グループは、海外事業の拡大をはかっており、為替相場の変動リスクを軽減させるための施策を実行しておりますが、急激な為替相場の変動が生じた場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 資材価格の変動

原材料の価格が高騰した際に、製品価格に反映することが困難な場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (6) 金利の変動

当社グループの借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債は、平成30年3月末時点で40,104百万円（総資産の15.2%）であり、今後の市場金利の動向によっては当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (7) 保有資産価格の変動

有価証券等の金融資産を保有しているため、時価の変動により当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (8) 品質問題

当社グループでは、製造・販売する製品について品質管理体制を整備し、高い品質水準の確保に努めております。また、製造物賠償責任については必要な保険に加入しております。しかしながら、予期せぬ事情により大きな品質問題が発生した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (9) 情報漏洩

当社グループの保有する個人情報や当社グループの技術・営業等の事業に関する機密情報等については社内規程の整備やその徹底を通じて万全を期しておりますが、コンピューターウイルスの感染や不正アクセスその他不測の事態により、社外に漏洩した場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (10) 重要な訴訟等

当社グループの事業活動に関連して、様々な事由により、当社グループに対して訴訟その他の請求が提起される可能性があり、その内容によっては当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (11) 災害

当社グループでは、各拠点で防災対策を実施しておりますが、拠点のいずれかが大規模災害により被災し、稼働が困難になった場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

## (12) 減損処理の影響

当社グループは、事業用の資産や企業買収の際に生じるのれんなど様々な有形・無形固定資産や繰延税金資産等を計上しております。これらの資産については、今後の業績計画との乖離や時価の下落等によって期待されるキャッシュ・フローが生み出せない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

## (13) 退職給付債務

当社グループの年金資産の運用利回りが低下した場合、退職給付債務を計算する前提となる基礎率に変更がある場合、及び退職給付制度の変更がある場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

## 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## (1) 経営成績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業業績の改善や設備投資の増加など、緩やかな景気回復基調を継続しております。一方、世界経済は、米国の政策運営や朝鮮半島、中東の地政学的リスク等、先行きの不透明感はあるものの、米国では景気の回復が続いており、アジア地域においても景気持ち直しの動きがみられました。

このような中、当社グループは最終年度である中期経営計画「V120」完遂に向け、製品競争力強化に注力し、国内インフラ事業における「国内事業の収益基盤の強化」を着実に進め、また、新興国の成長の歩みに合わせた「海外事業の成長拡大」に取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度の経営成績は、以下のとおりとなりました。

(単位:百万円)

	平成29年3月期 実績	平成30年3月期 実績	増減額	増減率(%)
売上高	220,141	241,832	21,691	9.9
営業利益	8,849	11,381	2,531	28.6
経常利益	8,209	9,992	1,783	21.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,743	7,056	1,313	22.9

当連結会計年度(以下「当期」)の営業利益は11,381百万円となり前連結会計年度(以下「前期」)と比較し2,531百万円増加しております。

当期の営業外損益につきましては、営業外収益が1,333百万円、営業外費用が2,722百万円となりました。営業外収益の主な内訳は、受取利息及び配当金556百万円であります。営業外費用の主な内訳は、持分法による投資損失901百万円、支払利息478百万円であります。この結果、経常利益は9,992百万円となり前期と比較して1,783百万円増加し、売上高経常利益率は4.1%となっております。

当期の特別損益につきましては、特別利益が482百万円、特別損失が202百万円となりました。特別利益の主な内訳は、投資有価証券売却益480百万円であります。特別損失の主な内訳は、損害賠償金200百万円であります。

この結果、税金等調整前当期純利益は10,272百万円となり、法人税、住民税及び事業税、法人税等調整額合計で3,208百万円計上、及び非支配株主に帰属する当期純利益7百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は7,056百万円となっております。また、1株当たり当期純利益は31円10銭、自己資本利益率は9.2%となっております。

なお、各事業分野における営業活動の状況は次のとおりであります。売上高につきましては、セグメント間の取引を含んでおります。

## 社会インフラ事業分野

売上高は前期比16.2%増の147,049百万円、営業利益は23.8%増の4,080百万円となりました。

電力・社会システム事業関連は、太陽光発電製品は減少しましたが、日系企業の海外生産拠点向け設備投資の回復などにより、前期比で増収となりました。

電鉄システム事業関連は、国内においては競争激化の傾向にあるものの、海外の大型電鉄プロジェクトの売上が堅調に推移し、前期比で増収となりました。

水・環境事業関連は、地方の財政難による予算の削減や人口減少等による需要縮小など、厳しい事業環境の中、提案活動強化による更新物件の受注回復により、前期比で増収となりました。

#### 産業システム事業分野

売上高は前期同水準の56,000百万円、営業利益は前期比77.8%増の4,384百万円となりました。

モータドライブ事業関連は、PHEV・EV向けモータ・インバータの堅調な推移により、前期比で増収となりました。

電子機器事業関連は、半導体製造装置市場の旺盛な成長を背景に、真空コンデンサ、パルス電源等を中心に堅調に推移し、前期比で増収となりました。

動計・搬送システム事業関連は、自動車メーカーの試験設備向け投資の回復及び物流業界における投資拡大により受注は復調しつつありますが、昨年度の受注減の影響により、前期比で減収となりました。

#### 保守・サービス事業分野

ワンストップサービスの取組みと、民間工場・施設のウォークスルーによる診断・提案等を実施するとともに、それに対応できる人材育成及び研究開発を強化したことにより、売上高は前期比2.8%増の33,962百万円、営業利益は5.1%減の3,587百万円となりました。

#### 不動産事業分野

業務・商業ビルThinkPark Tower（東京都品川区大崎）を中心とする保有不動産の賃貸事業を行っており、売上高は前期同水準の3,463百万円、営業利益は1,337百万円となりました。

#### その他の事業分野

電気化学計測機器や電気絶縁材料の製造・販売、従業員の福利厚生サービス、物品販売など、報告セグメントに含まれない事業については、売上高は前期比4.3%減の18,327百万円、営業利益は7.1%増の497百万円となりました。

## (生産、受注及び販売の状況)

## 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
社会インフラ事業	123,027	107.0
産業システム事業	50,174	98.9
保守・サービス事業	33,228	102.8
不動産事業	-	-
その他	24,721	181.0
合計	231,151	109.2

- (注) 1. セグメント間取引につきましては、相殺消去しております。  
2. 上記その他は、報告セグメントに属さない生産部門等であり、主に工事・購入品であります。  
3. 金額は販売価格であり、消費税等を含んでおりません。  
4. 上記金額は、提出会社セグメント間の内部取引高が含まれており、外部売上に対応する金額ではありません。

## 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
社会インフラ事業	171,098	127.4	185,401	118.9
産業システム事業	54,314	120.7	20,236	114.3
保守・サービス事業	34,771	109.1	6,867	138.3
不動産事業	3,266	102.4	315	127.2
その他	10,116	103.8	1,645	120.0
合計	273,568	122.1	214,464	119.0

- (注) 1. セグメント間取引につきましては、相殺消去しております。  
2. 金額は販売価格であり、消費税等を含んでおりません。

## 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
社会インフラ事業	144,136	116.8
産業システム事業	51,783	100.9
保守・サービス事業	32,869	102.7
不動産事業	3,199	100.4
その他	9,843	95.9
合計	241,832	109.9

- (注) 1. セグメント間取引につきましては、相殺消去しております。  
2. 金額は販売価格であり、消費税等を含んでおりません。

## (2) 財政状態

当連結会計年度末(以下「当期末」)の総資産は、前連結会計年度末(以下「前期末」)比16,810百万円(6.8%)増加し、264,457百万円となりました。

流動資産は売上債権の増加により、前期末比16,224百万円(11.8%)増加の153,803百万円となりました。

固定資産は、Prime Meiden Ltd.の連結に伴う機械装置及び運搬具の増加により、前期末比585百万円(0.5%)増加の110,653百万円となりました。

当期末の負債は、買掛金等の債務の増加等により前期末比9,894百万円(5.7%)増加して183,228百万円となりました。

当期末の純資産合計は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により前期末比6,916百万円(9.3%)増加して81,229百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前期末の29.6%から30.3%となりました。

## (3) キャッシュ・フロー

当期末における現金及び現金同等物(以下「資金」)は、前期末に比べ771百万円減少し、9,236百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は17,975百万円(前期は11,840百万円の獲得)となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益10,272百万円、減価償却費8,897百万円、仕入債務の増加額7,700百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加額12,208百万円、法人税等の支払額2,473百万円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は7,582百万円(前期は12,031百万円の使用)となりました。

これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出7,082百万円であります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は11,230百万円(前期は3,767百万円の使用)となりました。

支出の主な内訳は、コマーシャル・ペーパーの償還による支出9,000百万円、長期借入金の返済による支出3,438百万円であり、収入の主な内訳は、社債の発行による収入5,000百万円であります。

### (資本の財源及び資金の流動性に係る情報)

当連結会計年度における資金調達は、主として借入金及びコマーシャル・ペーパーをもって行いました。調達においては、長期・短期のバランスと安定性を考慮し、一部、社債を発行し、調達手段の多様化を図りました。このほか、資産圧縮等、資金効率の向上に努めました結果、借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債の残高は、前期比5,261百万円減の40,104百万円となりました。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

当該事項はありません。

#### 5 【研究開発活動】

当社グループでは、社会インフラの未来を支えて持続的に成長する重電メーカーとなるべく、製品競争力と、それらを支える基盤技術力の強化に取り組みました。

当連結会計年度の研究開発費は、連結売上高の3.9%にあたる9,402百万円でした。各事業分野別の研究開発費は、社会システム事業分野で3,185百万円、産業システム分野で2,671百万円、保守・サービス事業分野で336百万円、その他事業分野で35百万円でした。また、研究開発本部等で実施している全社共通の研究開発費は3,173百万円でした。

当連結会計年度の主な研究開発の取り組みは次のとおりです。

基盤技術開発につきましては、製品の品質と長期信頼性を向上するため、熱流体・音・振動などの解析技術や絶縁材料・金属材料などの材料技術の高度化、S i C等の新デバイス導入に関する評価・適用技術の開発に取り組みました。

製品開発につきましては、これまで培ってきた絶縁・材料・解析などの基盤技術を適用し、発電機器、変電機器、モータや、その応用システムを中心に様々な特長製品を開発しました。

発電機では、小型化、原価低減、70MVAまでの容量拡大を図った新型4極タービン発電機を開発しました。開閉装置では、海外各国電力会社の仕様に適応し、小型化・原価低減・規格適合を実現した24kVガス絶縁開閉装置や、12kV気中絶縁開閉装置を開発しました。

E V用モータ・インバータでは、両者を一体型とすることで、更なる小型・軽量化、高効率を実現した機電一体型の駆動ユニットを開発しました。

電子機器製品では、真空コンデンサを高耐電圧化・高精度化し、ラインアップの拡充を図りました。パルス電源では、パルス幅変調技術を適用した、新たな半導体露光装置向け製品を開発しました。

I o T ・ A I関連製品につきましては、新しい価値を創造し、ビジネスモデルを変革するため、製品・サービスの拡充を図りました。

セキュリティ関連では、クラウドシステムの情報セキュリティ認証（ISO27001）及びクラウドアドオン認証（ISO27017）を取得しました。これにより、安全・安定したサービスを提供いたします。

メンテナンス分野では、回転機の機械系異常診断にて故障部位を特定する新技術を確立しました。これにより、故障の未然防止に加えて、現場設備の品質や安定運用を維持することが可能となりました。また、半導体製造装置向けに稼働データを収集し、A Iによる予知保全を行うエッジコントローラを開発しました。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

##### (1) 重要な設備の新設等

当社グループは、各セグメントにおいて成長が期待できる分野への投資に重点を置き、合わせて省力化、合理化及び製品の信頼性向上のための投資を行っております。当連結会計年度の設備投資（金額には消費税等を含みません）の内訳（有形固定資産のほか、ソフトウェアへの投資を含みます）は、次のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメントの名称	設備投資額
社会インフラ事業	2,509
産業システム事業	1,902
保守・サービス事業	317
不動産事業	60
その他	121
全社	2,672
合計	7,584

各セグメントの主要な投資内容は、次のとおりであります。

社会インフラ事業は、発電製品関連設備259百万円、変電製品関連設備1,248百万円等であります。

産業システム事業は、モータ・インバータ関連設備412百万円、動力計測システム関連設備163百万円、真空コンデンサ生産設備拡張964百万円等であります。

保守・サービス事業は、メンテナンス業務に関わる設備317百万円であります。

全社は、情報システム関連設備997百万円、短絡試験用発電機更新321百万円等であります。

なお、当連結会計年度の生産能力に重要な影響を及ぼすような固定資産の除却、売却または災害による滅失などはありません。

## 2 【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

(平成30年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積 千㎡)	その他	合計	
太田事業所 (群馬県太田市)	社会インフラ事業 産業システム事業 その他	回転機システム 製造設備 動力計測システム 製造設備	2,032	652	795 (175)	309	3,790	480
沼津事業所 (静岡県沼津市)	社会インフラ事業 産業システム事業 その他	ソレスター製造設備 環境システム製造 設備 コンピュータ システム製造設備 電子機器製造設備 研究開発設備 インバータ製造設備	10,312	2,951	5,529 (375)	3,021	21,814	1,535
名古屋事業所 (愛知県清須市)	産業システム事業 その他	産業車両用電装品・ ロジスティクスシ ステム製造設備	606	212	220 (97)	144	1,184	133
本社事務所 五反田事務所 (東京都品川区) 支社・支店・ 営業所等 (大阪府大阪市 中央区他)	社会インフラ事業 産業システム事業 不動産事業 その他	システムエンジニア リング業務関連設備 研究開発設備 全社管理業務 関連設備 購買業務関連設備 販売業務関連設備	19,248	296	3,525 (113)	4,086	27,156	1,605
メンテナンス 拠点 (兵庫県 尼崎市他)	保守・サー ビス事業 その他	メンテナンス業務 関連設備	697	5	1,442 (13)	-	2,146	16
合計			32,898	4,118	11,513 (776)	7,563	56,092	3,769

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品、建設仮勘定、リース資産及びソフトウェアの合計です。

なお、上記の金額には消費税等を含んでおりません。

2. 土地面積は千㎡未満を切り捨てて表示しております。

3. 上表のほか、賃借中の土地、建物(年間賃借料383百万円)があります。

4. 上表の「本社事務所」の土地の面積には、(株)世界貿易センタービルディングと共有している土地18千㎡が含まれております。

5. 現在休止中の主要な設備はありません。

(2) 国内子会社

(平成30年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積 千㎡)	その他	合計	
明電興産(株)	本社等 (東京都 品川区等)	その他	建物・ 土地等	244	28	652 (3)	81	1,007	263
(株)甲府明電舎	本社等 (山梨県 中央市)	産業システ ム事業	電気製造設 備等	76	442	( )	118	637	204

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品、建設仮勘定及びソフトウェアの合計です。  
 なお、上記の金額には消費税等を含んでおりません。  
 2. 土地面積は千㎡未満を切り捨てて表示しております。  
 3. 現在休止中の主要な設備はありません。

(3) 海外子会社

(平成30年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積 千㎡)	その他	合計	
MEIDEN SINGAPORE PTE.LTD.	本社等 (シンガポール)	社会インフ ラ事業	電気機器製 造設備等	842	391	( )	227	1,461	423
Prime Meiden Ltd.	本社等 (インド)	社会インフ ラ事業	変圧器製造 設備等	899	1,718	( )	112	2,731	390

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品、建設仮勘定及びソフトウェアの合計です。  
 なお、上記の金額には消費税等を含んでおりません。  
 2. 土地面積は千㎡未満を切り捨てて表示しております。  
 3. 現在休止中の主要な設備はありません。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

当連結会計年度後1年間の設備投資計画（新設・拡充）は10,400百万円であり、セグメントごとの内訳（有形固定資産のほか、ソフトウェアへの投資を含みます）は次のとおりであります。

（単位：百万円）

セグメントの名称	平成30年3月末 計画金額	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
社会インフラ事業	3,500	発電製品・変電、配電製品・監視制御装置・水処理装置・電力変換装置の製造設備等の増強、合理化、老朽更新等	自己資金及び借入金
産業システム事業	2,200	動力計測システム・モータ、インバータ・電動力応用製品・真空コンデンサ・電子機器製品・ロジスティクス関連製品の製造設備等の増強、合理化、老朽更新等	
保守・サービス事業	600	メンテナンスに関わる設備の増強、老朽更新等	
不動産事業	100	Think Park Towerを中心とした保有不動産の維持等	
その他	300	以上のセグメントに属さない業務に関する設備の増強、老朽更新等	
全社	3,700	事業セグメントにまたがる共通設備の増強、合理化、老朽更新等	
合計	10,400		

（注）1．上記の金額には消費税等を含んでおりません。

2．各セグメントの主要な計画概要は、次のとおりであります。

社会インフラ事業は、発電製品関連設備300百万円、変電製品関連設備1,800百万円等であります。

産業システム事業は、モータ・インバータ関連設備800百万円、動力計測システム関連設備200百万円等あります。

保守・サービス事業は、メンテナンス業務に関わる設備600百万円であります。

全社は、情報システム関連設備1,300百万円、生産合理化関連設備260百万円等あります。

#### (2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	576,000,000
計	576,000,000

(注) 平成30年6月27日開催の第154期定時株主総会において、当社株式について5株を1株に併合する旨が決議されており、株式併合の効力発生日(平成30年10月1日)をもって、発行可能株式総数は115,200,000株となる予定です。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	227,637,704	227,637,704	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	227,637,704	227,637,704	-	-

(注) 1. 当社は、平成30年5月14日開催の取締役会において、同年10月1日をもって、当社の単元株式数を1,000株から100株に変更することを決議しております。

2. 平成30年6月27日開催の第154期定時株主総会において、当社株式について5株を1株に併合する旨が決議されております。これにより、株式併合の効力発生日(平成30年10月1日)をもって、発行済株式総数は182,110,164株減少し、45,527,540株となる予定です。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数		資本金		資本準備金		摘要
	増減数 (千株)	残高 (千株)	増減額 (百万円)	残高 (百万円)	増減額 (百万円)	残高 (百万円)	
平成17年9月30日	18,615	227,637	-	17,070	-	5,000	平成17年9月26日開催の定時取締役会決議に基づき、自己株式18,615千株を消却しております。

(5) 【所有者別状況】

(平成30年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(名)	-	58	44	286	171	8	10,489	11,056	-
所有株式数(単元)	-	77,609	4,032	48,775	49,483	33	46,637	226,569	1,068,704
割合(%)	-	34.25	1.78	21.53	21.84	0.01	20.58	100.00	-

- (注) 1. 自己株式766,790株は、株式の状況の「個人その他」に766単元、「単元未満株式の状況」に790株含まれております。  
2. 証券保管振替機構名義の株式3,654株は、株式の状況の「その他の法人」に3単元、「単元未満株式の状況」に654株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

(平成30年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
住友電気工業株式会社	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号	13,156	5.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	12,160	5.36
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	11,209	4.94
日本電気株式会社	東京都港区芝五丁目7番1号	8,730	3.85
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	7,500	3.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	6,024	2.66
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地七丁目18番24号	5,307	2.34
明電舎従業員持株会	東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower	4,714	2.08
EVERGREEN(常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	P.O. BOX 2992 RIYADH 11169 KINGDOM OF SAUDI ARABIA (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	3,317	1.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	3,277	1.44
計	-	75,396	33.23

- (注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)の保有株式は、信託業務にかかる株式であります。  
2. 平成29年10月5日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、野村證券株式会社及びNOMURA INTERNATIONAL PLC 及びその共同保有者である野村アセットマネジメント株式会社が平成29年9月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
なお、その大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	413	0.18
NOMURA INTERNATIONAL PLC	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	2,447	1.08
野村アセットマネジメント株式会社	東京都中央区日本橋一丁目12番1号	7,662	3.37

3. 平成29年11月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、三井住友信託銀行株式会社及びその共同保有者である三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及び日興

アセットマネジメント株式会社が平成29年10月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	13,656	6.00
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝三丁目33番1号	519	0.23
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	1,125	0.49

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成30年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 766,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 225,803,000	225,803	-
単元未満株式	普通株式 1,068,704	-	-
発行済株式総数	227,637,704	-	-
総株主の議決権	-	225,803	-

(注) 1. 証券保管振替機構名義の株式3,654株のうち、3,000株は、「完全議決権株式(その他)」に含まれており、654株は、「単元未満株式」に含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

2. 自己株式766,790株のうち、790株は、「単元未満株式」に含まれております。

【自己株式等】

(平成30年3月31日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社明電舎	東京都品川区大崎 二丁目1番1号	766,000	-	766,000	0.34
計	-	766,000	-	766,000	0.34

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	10,406	4,273,329
当期間における取得自己株式	3,797	1,574,107

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	766,790	-	770,587	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。  
2. 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

株主のみなさまへの適切な利益還元を経営の重要課題として位置づけており、株主資本の充実と株主資本利益率の向上を図るとともに、業績に応じた適正な配当を実施することを基本方針としております。また、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当につきましては株主総会、中間配当につきましては取締役会であります。

内部留保につきましては、市場競争力の維持・向上のために、設備投資及び研究開発投資へ効果的に充当することにしております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株につき8円(うち中間配当金4円)の普通配当に、創業120周年記念配当1円を加えた、1株につき9円の配当を実施することを決定しました。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日の株主名簿に記載又は記録された株主もしくは登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年10月31日 取締役会決議	907	4
平成30年6月27日 定時株主総会決議	1,134	5

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第150期	第151期	第152期	第153期	第154期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	460	467	533	555	492
最低(円)	265	339	338	295	360

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月
最高(円)	457	492	477	491	466	415
最低(円)	422	422	445	452	384	363

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状況】

男性14名 女性 - 名 ( 役員のうち女性の比率 - % )

役職名 及び職名	氏名 ( 生年月日 )	略歴	任期	所有株式数 ( 千株 )
代表取締役 取締役会長	浜崎 祐司 ( 昭和27年 2月 4日 )	平成 16. 6 住友電気工業株式会社 執行役員 情報通信事業本部副本部長 " 17. 6 同社 常務執行役員 ブロードバンド・ソリューション事業本部長 研究開発本部副本部長 " 18. 6 同社 常務取締役 ブロードバンド・ソリューション事業本部長 " 20. 6 同社 常務取締役 情報通信研究開発本部長 " 22. 4 当社 専務執行役員 " 22. 6 当社 取締役 " 23. 4 当社 取締役副社長 " 25. 6 当社 取締役社長 " 30. 6 当社 取締役会長 現在に至る	( 注 3 )	55
代表取締役 取締役社長	三井田 健 ( 昭和30年 8月16日 )	昭和 53. 4 当社 入社 平成 20. 4 執行役員 経営企画グループ長 兼 経営企画部長 " 23. 4 常務執行役員 経営企画グループ長 兼 経営企画部長 " 24. 4 専務執行役員 経営企画グループ長 " 24. 6 取締役 " 27. 4 取締役副社長 " 30. 6 取締役社長 現在に至る	( 注 3 )	28
代表取締役 取締役副社長	正木 浩三 ( 昭和28年12月 2日 )	平成 17. 6 株式会社三井住友銀行 執行役員 上海支店長 " 18. 12 同行 執行役員 中国本部長 兼 上海支店長 " 19. 4 同行 常務執行役員 中国本部長 兼 上海支店長 " 21. 4 同行 常務執行役員 三井住友銀行(中国)有限公司会長 " 22. 4 当社 専務執行役員 " 22. 6 当社 取締役 " 23. 4 当社 取締役副社長 現在に至る	( 注 3 )	55
代表取締役 取締役副社長	町村 忠芳 ( 昭和30年 4月 1日 )	昭和 52. 4 当社 入社 平成 24. 4 執行役員 電力変換製品主管 " 26. 4 常務執行役員 電力変換製品主管 兼 発電製品主管 " 27. 4 専務執行役員 " 27. 6 取締役 " 30. 4 取締役副社長 現在に至る	( 注 3 )	51
代表取締役 取締役副社長	倉元 政道 ( 昭和30年 9月11日 )	昭和 55. 4 当社 入社 平成 24. 4 研究開発本部シニアフェロー " 25. 4 執行役員 研究開発本部長 " 26. 4 常務執行役員 研究開発本部長 " 27. 4 専務執行役員 研究開発本部長 " 27. 6 取締役 " 30. 4 取締役副社長 現在に至る	( 注 3 )	30
取締役 兼 専務執行役員	大橋 延年 ( 昭和31年11月 2日 )	昭和 54. 4 当社 入社 平成 25. 4 執行役員 人事・総務グループ長 兼 人事企画部長 " 27. 4 常務執行役員 人事・総務グループ長 現在に至る " 30. 4 専務執行役員 現在に至る " 30. 6 取締役 現在に至る	( 注 4 )	36
取締役 兼 専務執行役員	竹川 徳雄 ( 昭和33年12月18日 )	昭和 56. 4 当社 入社 平成 27. 4 執行役員 プラント建設本部長 " 29. 4 常務執行役員 生産統括本部長 現在に至る " 30. 4 専務執行役員 現在に至る " 30. 6 取締役 現在に至る	( 注 4 )	10

役職名 及び職名	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 兼 専務執行役員	玉木 伸明 (昭和35年3月25日)	昭和 57.4 当社 入社 平成 27.4 変電事業部長 現在に至る " 28.4 執行役員 " 29.4 常務執行役員 " 30.4 専務執行役員 現在に至る " 30.6 取締役 現在に至る	(注4)	6
取締役	竹中 裕之 (昭和22年4月30日)	平成 13.6 住友電気工業株式会社 取締役 " 15.6 同社 執行役員 " 16.6 同社 常務取締役 " 19.6 同社 専務取締役 兼 電線・機材・エネルギー事業本部長 兼 生産技術本部副本部長 " 20.6 同社 専務取締役 兼 電線・機材・エネルギー事業本部長 " 22.5 同社 専務取締役 " 22.6 同社 副社長 " 25.6 当社 取締役 現在に至る	(注3)	-
取締役	安井 潤司 (昭和26年1月3日)	平成 16.4 日本電気株式会社 執行役員 兼 第三ソリューション営業事業本部長 " 17.4 同社 執行役員 兼 第四ソリューション事業本部長 " 20.4 同社 執行役員常務 " 20.6 同社 取締役 執行役員常務 " 22.4 同社 取締役 執行役員専務 " 23.7 同社 取締役 執行役員専務 兼 チーフサプライチェーンオフィサー " 24.4 同社 代表取締役 執行役員副社長 兼 チーフサプライチェーンオフィサー " 28.4 同社 代表取締役 執行役員副社長 " 28.6 当社 取締役 現在に至る	(注3)	-
常任監査役 (常勤)	伊東 竹虎 (昭和33年12月26日)	昭和 56.4 当社 入社 平成 23.9 エネルギーシステム事業部 回転機システム工場長 " 26.4 発電製品企画部長 " 27.10 発電事業部 専任部長 " 29.4 監査役室 支配人 " 29.6 常任監査役 現在に至る	(注6)	9
常任監査役 (常勤)	加藤 誠治 (昭和37年11月3日)	昭和 63.4 当社 入社 平成 25.1 人事・総務グループ 総務・法務部長 " 26.4 経営監査部長 " 28.4 人事・総務グループ 法務部長 " 30.4 監査役室 支配人 " 30.6 常任監査役 現在に至る	(注7)	11
監査役	秦 喜秋 (昭和20年11月4日)	平成 20.4 三井住友海上グループホールディングス株式会社 取締役会長 " 22.4 三井住友海上火災保険株式会社 取締役 " 22.4 M S & A Dインシュアランス グループ ホールディングス株式会社 顧問 " 23.4 三井住友海上火災保険株式会社 常任顧問 " 24.6 当社 社外監査役 現在に至る " 24.6 株式会社だいこう証券ビジネス 取締役 現在に至る " 26.4 三井住友海上火災保険株式会社 シニアアドバイザー 現在に至る	(注5)	-

役職名 及び職名	氏名 (生年月日)	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役	縄田 満児 (昭和29年4月25日)	平成 19. 6 住友信託銀行株式会社(現 三井住友信託銀行株式会社) 常務執行役員	(注5)	-
		" 20. 5 同行 常務執行役員 審査部長		
		" 21. 1 同行 常務執行役員 審査第一部長		
		" 21. 5 同行 常務執行役員		
		" 22. 6 ライフ住宅ローン株式会社 取締役会長		
		" 22. 6 ファーストクレジット株式会社 取締役会長		
		" 22.10 住信不動産ローン&ファイナンス株式会社 (現 三井住友トラスト・ローン&ファイナンス株式会社) 取締役社長		
		" 27. 4 三井住友トラスト・ローン&ファイナンス株式会社 取締役会長		
		" 28. 4 三井住友トラスト・パナソニックファイナンス株式会社 常任監査役 現在に至る		
		" 28. 6 当社 社外監査役 現在に至る		
計				291

- (注) 1. 取締役竹中裕之及び安井潤司の両氏は、社外取締役であります。
2. 監査役秦喜秋及び縄田満児の両氏は、社外監査役であります。
3. 任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
6. 任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
7. 任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
8. 当社では、取締役会の一層の活性化を促し、取締役会の意思決定・業務執行の監督機能と各組織の業務執行機能を明確に区分し、経営効率の向上を図るため、執行役員制を導入しております。  
平成30年6月27日現在の執行役員は22名であり、専務執行役員大橋延年(取締役兼務)、同竹川徳雄(取締役兼務)、同玉木伸明(取締役兼務)、常務執行役員五十嵐和巳、同加藤三千彦、同鉢呂友康、同亀山悟、同岩尾雅之、同望月達樹、執行役員古川和彦、同安保輝久、同松下法隆、同須藤勇、同井上晃夫、同東家浩、同鈴木雅彦、同金田実、同村嶋久裕、同毛綿谷聡、同安川国明、同水谷典雄、同宮澤秀毅で構成されております。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (1) 会社の機関及び業務の適正を確保するための体制の整備の状況等

##### コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、「より豊かな未来をひらく」ことを企業使命とし、「お客様の安心と喜びのために」を提供価値とした理念のもと、より豊かで住みよい未来社会の実現に貢献するため、新しい技術と価値の創造にチャレンジし続けるとともに、お客様の安心と喜びのために、環境への配慮と丁寧なサポートを徹底し、品質の高い製品、サービスを通じてお客様の課題解決や夢の実現をお手伝いすることを基本姿勢としております。

この基本姿勢を実行に移すため、平成18年5月の定時取締役会において「業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針」を策定し、平成27年5月の定時取締役会で一部改定しました。

##### コーポレートガバナンスに関する施策の実施状況

当社は、監査役設置会社ですが、平成15年6月より執行役員制を導入し、あわせて取締役会の機能強化を図り、取締役会が有する「経営の意思決定及び監督機能」と「業務執行機能」とを分離し、前者を取締役に付与し、後者を代表取締役及び代表取締役から権限委譲された執行役員に付与しております。

これにより、取締役会は明電グループ全体の視点に立った経営意思決定と経営全般を指揮監督する役割責任を担っております。

取締役の員数は10名であり、この員数は、激変する事業環境において、十分な議論を尽くし、的確かつ迅速な意思決定が行える規模であると考えております。また、取締役会を構成する取締役10名のうち2名を社外取締役としており、業務執行に対する監督機能を充実させ、コーポレートガバナンスを強化しております。

取締役会により選任された執行役員は、取締役会が決定する明電グループ経営方針に従い、代表取締役から権限委譲された範囲での特定の業務執行における役割責任を担い、代表取締役の業務監督を受けながら、機動的な業務執行を行っております。

このようにコーポレートガバナンスの実効性の確保を図る一方、当社内の経営陣と利害関係を有さない独立性のある社外取締役を選任しており、一般株主との利益相反の可能性も回避できる体制を採用しております。

コンプライアンス体制につきましては、平成15年1月よりコンプライアンスプログラムを構築しており、トップから従業員まで全社を挙げてコンプライアンスに基づく企業行動の徹底を図り、当社の健全な自治確立と社会的信用の蓄積に寄与することに努めております。

コンプライアンスに基づく企業行動を徹底するための重要方針を審議し、立案し、推進するため、代表取締役又は役付執行役員を委員長とするコンプライアンス委員会を設置しており、年間2回、定期的に当該委員会を開催しております。また、コンプライアンスに関する問題が生じた場合は、必要に応じて、臨時に開催することとしております。

各職場においては、全国で140名のコンプライアンスマネージャを配置し、担当する職場が法令・定款・社内規程等の社会的規範に従って業務を遂行しているか否かの確認や、担当する職場の従業員からのコンプライアンスに関する相談窓口としての役割を担っております。

また、コンプライアンスに関する問題が生じた場合や生じるおそれのある場合の通報窓口として、コンプライアンス・ホットラインを設置し、書面、電話、電子メールによる相談を受け付けております。

なお、関係会社においても、当社に準じた体制を構築しております。

平成18年4月より「公益通報者保護規程」を設けるとともに、法令違反等を発見した従業員等が通報する窓口として、社内窓口(コンプライアンス事務局)及び社外窓口(法律事務所)を設置し、書面、電話、電子メール、ファクシミリによる相談を受け付けております。

これにより、組織的又は個人的な法令違反等について通報した者に対する不利益な取り扱いを防止し、前述のコンプライアンス体制と相まって当社の健全な自治確立と社会的信用の蓄積に寄与することに努めております。

#### 内部監査、監査役及び会計監査の状況

内部監査につきましては、各部門の業務運営の制度と業務実施状況を監査し、財産の保全と経営効率の向上を図り、収益力向上に貢献することを目的とする専門部署を設置しており、業務執行に対する監督機能を強化しております。

監査役監査につきましては、公正不偏な立場での適切な監査の実施により、会社の健全なる発展に寄与し、株主の負託に応えるとともに会社の社会的信用の維持向上に努めることを方針としております。監査役の員数は4名(うち社外監査役2名)で、監査役監査を補佐するために、監査役の指揮・監督の下職務に従事する2名の専属スタッフを配置しております。社外監査役のうち秦喜秋氏は、損害保険会社における実務経験及び役員を務めた経験から、縄田満児氏は金融機関における実務経験及び役員を勤めた経験から、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

会計監査につきましては、わが国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠した監査を、有限責任 あずさ監査法人(業務執行社員は川瀬洋人氏、川村敦氏)が行っております。なお、当該監査法人又は業務執行社員との間には特別の利害関係はなく、適切な会計監査を受けております。監査補助者は公認会計士7名、その他8名であります。

内部監査、監査役監査、会計監査人監査はそれぞれ独立して実施しておりますが、内部監査部門、監査役、会計監査人とも連携を密にし、監査効率の向上を図っております。

そのほか、会社の業務執行について、執行側の顧問弁護士から必要に応じて助言を受けております。なお、監査側も別の顧問弁護士と契約し、必要に応じて助言を受けており、当該弁護士に公益通報社外窓口を依頼しております。

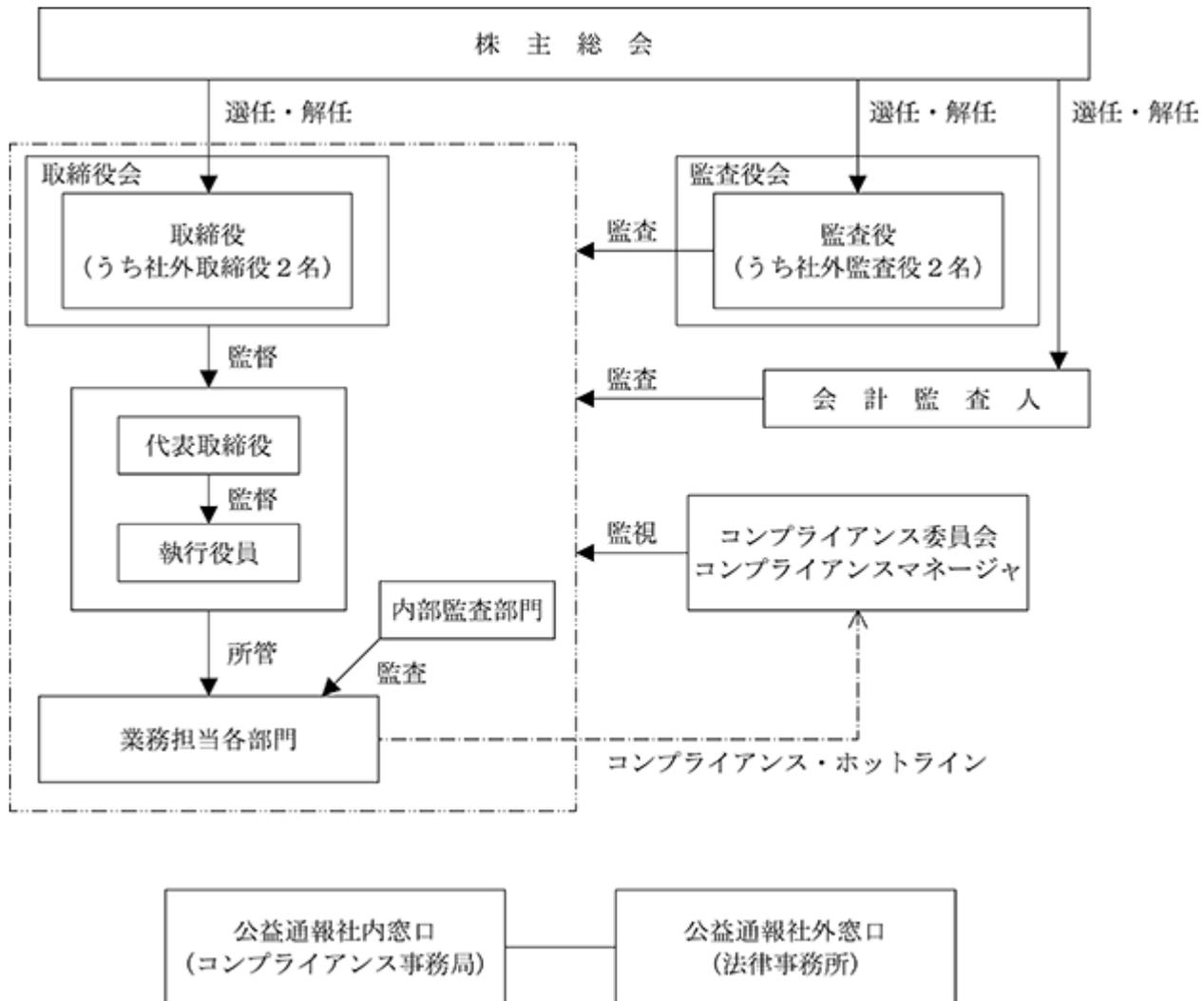
#### 社外取締役及び社外監査役の状況

社外取締役2名及び社外監査役2名につきましては、当社との間に人的関係、資本的關係及び取引関係その他の利害関係はありません。(社外取締役、社外監査役の当社株式の保有状況につきましては、「第4 提出会社の状況 5. 役員状況」に記載しております。)社外取締役及び社外監査役が役員であった他の会社は、当社の主要な株主ではなく、また製品販売、資材調達、資金の借入、保険商品の購入等の取引関係はあるものの当事業の意思決定に対して親会社と同等の影響を与えるような主要な取引先ではございません。

また、社外取締役及び社外監査役は、金融商品取引所が定める独立役員として届け出るため、これらの選任にあたっては、金融商品取引所が開示を求める独立性の基準を参考に一般株主と利害相反が生じるおそれのない社外取締役及び社外監査役としております。

また、社外役員とは責任限定契約を締結しており、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外取締役が700万円又は法令が定める額のいずれか高い額、社外監査役が500万円又は法令が定める額のいずれか高い額としております。

当社の業務執行・監視及び内部統制の模式図は以下のとおりであります。



(2) 役員報酬の内容

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	362	297	65	8
監査役 (社外監査役を除く)	44	44	-	3
社外役員	20	20	-	4

(注) 1．ストックオプション制度は採用しておりません。

2．平成19年6月の定時株主総会の終結の時をもって、退職慰労金制度を廃止しております。

3．当事業年度において、当社及び主要な連結子会社から受けた役員報酬額が100百万円以上の役員は存在しないことから役員ごとの報酬等の額は記載しておりません。

ロ．使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の員数	内容
126	4	専務執行役員分の報酬

ハ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

取締役報酬

基本報酬と役員賞与に分け、基本報酬につきましては、株主総会で決議された報酬枠の範囲内で、代表権の有無、役付役員の職務内容その他の要素を勘案し、適切な配分がなされるよう取締役会において決定しております。

また、役員賞与につきましては、当期にかかる業績を勘案した額を、株主総会において決定しております。

監査役報酬

株主総会で決議された報酬枠の範囲内で、監査役の業務に報いることのできる適切な額を、常勤・非常勤の別及び各監査業務の内容等を勘案しつつ、監査役会において決定しております。

(3) 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 117銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 20,225百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
豊田通商株式会社	484,250	1,631	取引先との関係維持・強化のため
株式会社小松製作所	502,078	1,456	取引先との関係維持・強化のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	244,755	990	主要取引銀行との関係維持・強化のため
スルガ銀行株式会社	371,665	871	主要取引銀行との関係維持・強化のため
アサヒグループホールディングス株式会社	207,000	871	取引先との関係維持・強化のため
株式会社ダイヘン	1,186,000	858	取引先との関係維持・強化のため
住友不動産株式会社	274,000	790	取引先との関係維持・強化のため
株式会社めぶきフィナンシャルグループ	1,775,315	790	主要取引銀行との関係維持・強化のため
住友大阪セメント株式会社	1,572,000	727	取引先との関係維持・強化のため
株式会社小野測器	884,500	700	事業上の協力関係の維持・強化のため
東海旅客鉄道株式会社	35,000	634	取引先との関係維持・強化のため
丸一鋼管株式会社	178,569	565	取引先との関係維持・強化のため
横河電機株式会社	274,000	480	取引先との関係維持・強化のため
東京瓦斯株式会社	733,741	371	取引先との関係維持・強化のため
中部電力株式会社	240,489	358	取引先との関係維持・強化のため
大王製紙株式会社	246,087	350	取引先との関係維持・強化のため
東北電力株式会社	227,910	343	取引先との関係維持・強化のため
東日本旅客鉄道株式会社	34,500	334	取引先との関係維持・強化のため
日本碍子株式会社	125,840	317	取引先との関係維持・強化のため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	81,972	316	主要取引銀行との関係維持・強化のため
東京電力株式会社	681,258	297	取引先との関係維持・強化のため
住友商事株式会社	193,000	289	取引先との関係維持・強化のため
株式会社豊田自動織機	50,000	276	取引先との関係維持・強化のため
北海道電力株式会社	309,204	260	取引先との関係維持・強化のため
株式会社電業社機械製作所	127,500	250	取引先との関係維持・強化のため
住友化学株式会社	378,155	235	取引先との関係維持・強化のため
株式会社世界貿易センタービルディング	110,000	220	事業上の協力関係の維持・強化のため
株式会社三重銀行	92,671	217	主要取引銀行との関係維持・強化のため
株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ	298,680	208	主要取引銀行との関係維持・強化のため
日本電設工業株式会社	94,000	188	取引先との関係維持・強化のため
京阪神ビルディング株式会社	300,500	184	取引先との関係維持・強化のため
九州電力株式会社	148,422	176	取引先との関係維持・強化のため

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社小松製作所	502,078	1,780	取引先との関係維持・強化のため
豊田通商株式会社	484,250	1,745	取引先との関係維持・強化のため
住友不動産株式会社	405,000	1,593	取引先との関係維持・強化のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	244,755	1,091	主要取引銀行との関係維持・強化のため
株式会社ダイヘン	1,186,000	968	取引先との関係維持・強化のため
株式会社小野測器	884,500	755	事業上の協力関係の維持・強化のため
住友大阪セメント株式会社	1,572,000	741	取引先との関係維持・強化のため
株式会社めぶきフィナンシャルグループ	1,775,315	726	主要取引銀行との関係維持・強化のため
東海旅客鉄道株式会社	35,000	704	取引先との関係維持・強化のため
横河電機株式会社	274,000	602	取引先との関係維持・強化のため
アサヒグループホールディングス株式会社	103,500	586	取引先との関係維持・強化のため
丸一鋼管株式会社	178,569	581	取引先との関係維持・強化のため
スルガ銀行株式会社	371,665	545	主要取引銀行との関係維持・強化のため
東京瓦斯株式会社	146,748	414	取引先との関係維持・強化のため
大王製紙株式会社	246,087	369	取引先との関係維持・強化のため
中部電力株式会社	240,489	361	取引先との関係維持・強化のため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	81,972	353	主要取引銀行との関係維持・強化のため
住友商事株式会社	193,000	345	取引先との関係維持・強化のため
東日本旅客鉄道株式会社	34,500	340	取引先との関係維持・強化のため
東北電力株式会社	227,910	323	取引先との関係維持・強化のため
株式会社豊田自動織機	50,000	322	取引先との関係維持・強化のため
株式会社電業社機械製作所	127,500	292	取引先との関係維持・強化のため
株式会社日本製鋼所	84,600	287	取引先との関係維持・強化のため
東京電力株式会社	681,258	279	取引先との関係維持・強化のため
京阪神ビルディング株式会社	300,500	267	取引先との関係維持・強化のため
住友化学株式会社	378,155	234	取引先との関係維持・強化のため
日本碍子株式会社	125,840	230	取引先との関係維持・強化のため
株式会社三重銀行	92,671	220	主要取引銀行との関係維持・強化のため
株式会社世界貿易センタービルディング	110,000	220	事業上の協力関係の維持・強化のため
北海道電力株式会社	309,204	215	取引先との関係維持・強化のため
株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ	298,680	208	主要取引銀行との関係維持・強化のため
日本電設工業株式会社	94,000	197	取引先との関係維持・強化のため
九州電力株式会社	148,422	188	取引先との関係維持・強化のため

(4) 取締役の定数

当社の取締役は35名以内とする旨定款に定めております。

(5) 取締役の選任の決議要件

取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

(6) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(7) 自己の株式の取得

当社は、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等に自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(8) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	84	-	83	1
連結子会社	-	-	-	-
計	84	-	83	1

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるTRIDELTA MEIDENSHA GmbHは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬として21千ユーロを支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるTRIDELTA MEIDENSHA GmbHは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGメンバーファームに対して、監査証明業務に基づく報酬として17千ユーロを支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に支払っている非監査業務の内容は、社債発行に係るコンフォートレター作成に関する業務等であります。

【監査報酬の決定方針】

当社グループの規模・業務の特性、監査日数等の要素を勘案して適切に決定することとしております。

## 第5 【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等の適正性を確保できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	10,105	9,506
受取手形及び売掛金	75,067	8 87,323
電子記録債権	3,634	8 6,887
商品及び製品	5,424	4,389
仕掛品	7 30,344	7 32,047
原材料及び貯蔵品	4,336	5,288
繰延税金資産	3,515	4,348
その他	4 5,338	4,207
貸倒引当金	187	195
流動資産合計	137,579	153,803
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	85,027	86,493
減価償却累計額	46,835	48,942
建物及び構築物（純額）	3, 6 38,192	6 37,550
機械装置及び運搬具	46,476	50,332
減価償却累計額	37,462	39,232
機械装置及び運搬具（純額）	6 9,014	6 11,100
土地	3 12,607	12,590
建設仮勘定	1,882	1,628
その他	20,568	21,168
減価償却累計額	18,239	19,037
その他（純額）	2,328	2,130
有形固定資産合計	64,026	64,999
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	5,227	5,568
のれん	1,055	5,738
その他	1,371	1,348
無形固定資産合計	7,654	12,655
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1, 3 26,886	1, 3 21,719
長期貸付金	31	32
繰延税金資産	9,906	9,739
その他	1,612	1,544
貸倒引当金	49	38
投資その他の資産合計	38,387	32,998
固定資産合計	110,067	110,653
資産合計	247,646	264,457

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	30,870	8 36,840
電子記録債務	1,945	2,659
短期借入金	2, 3 7,938	2, 3 8,196
コマーシャル・ペーパー	15,000	6,000
未払金	13,046	14,296
未払法人税等	1,126	3,240
前受金	11,755	13,962
賞与引当金	6,004	7,231
製品保証引当金	749	1,157
受注損失引当金	7 1,145	7 970
その他	13,779	15,940
流動負債合計	103,361	110,495
<b>固定負債</b>		
社債	-	5,000
長期借入金	3 22,427	20,907
退職給付に係る負債	43,714	43,060
環境対策引当金	817	654
繰延税金負債	7	7
その他	3,005	3,102
固定負債合計	69,972	72,732
負債合計	173,333	183,228
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	17,070	17,070
資本剰余金	13,197	12,435
利益剰余金	38,861	44,103
自己株式	177	182
株主資本合計	68,951	73,426
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	7,431	8,258
繰延ヘッジ損益	16	5
為替換算調整勘定	1,326	1,723
退職給付に係る調整累計額	4,455	3,179
その他の包括利益累計額合計	4,285	6,807
非支配株主持分	1,075	995
純資産合計	74,312	81,229
負債純資産合計	247,646	264,457

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	220,141	241,832
売上原価	1, 2, 3 164,685	1, 2, 3 181,429
売上総利益	55,456	60,403
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	782	746
販売手数料	880	905
従業員給料及び手当	14,399	14,272
賞与及び賞与引当金繰入額	5,217	5,791
退職給付費用	1,811	1,759
減価償却費	2,921	3,012
賃借料	1,787	1,783
通信交通費	2,301	2,448
研究費	3 3,511	3 4,439
その他	12,993	13,862
販売費及び一般管理費合計	46,606	49,022
営業利益	8,849	11,381
営業外収益		
受取利息及び配当金	561	556
受取賃貸料	118	110
原材料売却益	160	209
その他	476	458
営業外収益合計	1,316	1,333
営業外費用		
支払利息	465	478
持分法による投資損失	587	901
為替差損	43	109
出向者関係費	252	263
訴訟関連費用	-	400
その他	607	568
営業外費用合計	1,956	2,722
経常利益	8,209	9,992

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	359	480
退職給付制度改定益	38	-
その他	0	1
<b>特別利益合計</b>	<b>398</b>	<b>482</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	94	-
減損損失	89	-
関係会社株式評価損	45	-
関係会社整理損	141	-
損害賠償金	-	200
その他	4	2
<b>特別損失合計</b>	<b>375</b>	<b>202</b>
税金等調整前当期純利益	8,231	10,272
法人税、住民税及び事業税	2,293	4,351
法人税等調整額	257	1,142
<b>法人税等合計</b>	<b>2,551</b>	<b>3,208</b>
当期純利益	5,680	7,064
非支配株主に帰属する当期純利益 又は非支配株主に帰属する当期純損失( )	62	7
親会社株主に帰属する当期純利益	5,743	7,056

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	5,680	7,064
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,528	826
繰延ヘッジ損益	21	22
為替換算調整勘定	1,087	360
退職給付に係る調整額	646	1,275
持分法適用会社に対する持分相当額	678	59
その他の包括利益合計	1,745	2,545
包括利益	7,426	9,609
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	7,523	9,578
非支配株主に係る包括利益	96	30

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,070	13,197	34,933	174	65,026
当期変動額					
剰余金の配当			1,815		1,815
親会社株主に帰属する当期純利益			5,743		5,743
自己株式の取得				3	3
自己株式の処分		0		0	0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計		0	3,928	3	3,925
当期末残高	17,070	13,197	38,861	177	68,951

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	5,902	4	1,701	5,102	2,505	1,239	68,771
当期変動額							
剰余金の配当							1,815
親会社株主に帰属する当期純利益							5,743
自己株式の取得							3
自己株式の処分							0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,528	21	374	646	1,779	163	1,616
当期変動額合計	1,528	21	374	646	1,779	163	5,541
当期末残高	7,431	16	1,326	4,455	4,285	1,075	74,312

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,070	13,197	38,861	177	68,951
当期変動額					
剰余金の配当			1,815		1,815
親会社株主に帰属する当期純利益			7,056		7,056
自己株式の取得				4	4
自己株式の処分					
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		762			762
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		762	5,241	4	4,474
当期末残高	17,070	12,435	44,103	182	73,426

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,431	16	1,326	4,455	4,285	1,075	74,312
当期変動額							
剰余金の配当							1,815
親会社株主に帰属する当期純利益							7,056
自己株式の取得							4
自己株式の処分							
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							762
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	826	22	396	1,275	2,521	80	2,441
当期変動額合計	826	22	396	1,275	2,521	80	6,916
当期末残高	8,258	5	1,723	3,179	6,807	995	81,229

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>				
税金等調整前当期純利益		8,231		10,272
減価償却費		8,663		8,897
引当金の増減額（は減少）		564		1,369
退職給付に係る負債の増減額（は減少）		649		1,175
受取利息及び受取配当金		561		556
支払利息		465		478
持分法による投資損益（は益）		587		901
売上債権の増減額（は増加）		7,755		12,208
たな卸資産の増減額（は増加）		1,657		309
仕入債務の増減額（は減少）		7,484		7,700
その他		537		2,600
小計		15,549		20,323
利息及び配当金の受取額		608		607
利息の支払額		481		481
法人税等の支払額		3,835		2,473
営業活動によるキャッシュ・フロー		11,840		17,975
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>				
有形及び無形固定資産の取得による支出		7,270		7,082
投資有価証券の売却による収入		422		648
関係会社株式の取得による支出		2,687		587
貸付けによる支出		2,379		3
その他		115		556
投資活動によるキャッシュ・フロー		12,031		7,582
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>				
短期借入金の純増減額（は減少）		450		1,915
コマーシャル・ペーパーの純増減額（は減少）		4,000		9,000
長期借入れによる収入		10,000		-
長期借入金の返済による支出		16,543		3,438
社債の発行による収入		-		5,000
配当金の支払額		1,814		1,814
非支配株主への配当金の支払額		66		17
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出		-		272
その他		206		228
財務活動によるキャッシュ・フロー		3,767		11,230
現金及び現金同等物に係る換算差額		471		25
現金及び現金同等物の増減額（は減少）		4,429		811
現金及び現金同等物の期首残高		14,438		10,008
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		-		39
現金及び現金同等物の期末残高		1 10,008		1 9,236

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社数37社

主要な連結子会社名は「第1 企業の概況 3. 事業の内容」に記載しているため、省略しております。

当連結会計年度において、新たに設立した佐渡明電サービス株式会社を連結の範囲に含めております。

また、非連結子会社であったPrime Meiden Ltd.は、重要性が増したことにより当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

当連結会計年度において、MEIDEN EUROPE LTD.及び明電舎統括(上海)商貿有限公司は、清算終了により連結の範囲から除外しております。

また、連結子会社であるMEIDEN AMERICA, INC.は、連結子会社であったMEIDEN TECHNICAL CENTER NORTH AMERICA LLC.を吸収合併しております。これに伴い、消滅会社であるMEIDEN TECHNICAL CENTER NORTH AMERICA LLC.を連結の範囲から除外しております。

#### (2) 主要な非連結子会社の名称等

明電セラミックス株式会社

〔連結の範囲から除いた理由〕

非連結子会社6社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等はいずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の関連会社数1社

イーメル工業株式会社

Prime Meiden Ltd.は、重要性が増したことにより当連結会計年度より連結の範囲に含めたため、持分法適用の範囲から除外しております。

#### (2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称等

明電セラミックス株式会社

〔持分法を適用しない理由〕

持分法を適用していない非連結子会社(6社)及び関連会社(3社)は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、それらに対する投資につきましては、持分法を採用せず、原価法で評価しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

従来、決算日が12月31日であった連結子会社については同日現在の財務諸表を使用し、6月30日であった連結子会社については12月31日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用し連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行ってりましたが、THAI MEIDENSHA CO., LTD.、MEIDEN ELECTRIC(THAILAND) LTD.、P.T.MEIDEN ENGINEERING INDONESIA、明電太平洋(中国)有限公司、MEIDEN MALAYSIA SDN. BHD.、MEIDEN METAL ENGINEERING SDN. BHD.、MEIDEN THAI ENTERPRISE CO.,LTD.、TRIDELTA MEIDENSHA GmbHについては決算日を3月31日に変更し、明電舎(鄭州)電気工程有限公司、明電舎(杭州)電気系統有限公司、東莞明電太平洋電気工程有限公司、上海明電舎長城開関有限公司については連結決算日に本決算に準じた仮決算を行う方法に変更しております。この変更に伴い、当連結会計年度は平成29年1月1日から平成30年3月31日までの15か月間を連結しております。

なお、当該子会社の平成29年1月1日から平成29年3月31日までの売上高は3,084百万円、営業損失は64百万円、経常損失は8百万円、税金等調整前当期純損失は8百万円であります。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### 有価証券

###### (イ)子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

###### (ロ)その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

###### デリバティブ

時価法を採用しております。

###### たな卸資産

###### (イ)製品・半製品・仕掛品

主として個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

###### (ロ)原材料・貯蔵品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### 有形固定資産(リース資産を除く)

主として定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)、当社の不動産事業部門(東京・大崎)の建物附属設備、構築物及び機械装置並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物につきましては、定額法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額につきましては、主として法人税法に規定する方法と同一の基準を採用しております。

###### 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアにつきましては、社内における利用可能期間(3年~5年)に基づく定額法、それ以外の無形固定資産につきましては、定額法を採用しております。

また、顧客関連資産については、効果の及ぶ期間(主として12年)に基づく定額法を採用しております。

###### リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引及び1契約金額が3百万円以下のリース取引につきましては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権につきましては貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権につきましては個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

###### 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、従業員賞与の支給実績を勘案した支給見込額を計上しております。

###### 製品保証引当金

当社及び連結子会社が納入した製品の無償補修費用の支出に備えるため、無償補修費用を個別に見積り算出した額を計上しております。

###### 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、翌連結会計年度以降の損失発生見込額を計上しております。

#### 環境対策引当金

法令に基づいた有害物質の処理など、環境対策に係る支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

#### (4) 退職給付に係る会計処理の方法

##### 退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

##### 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法につきましては、給付算定式基準によっております。

##### 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12～15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

##### 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### (5) 重要な収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事につきましては、工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を適用しております。

#### (6) 重要なヘッジ会計の方法

##### ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

金利スワップにつきましては、特例処理の要件を満たすものにつきましては、特例処理を採用しております。

また、為替予約が付されている外貨建営業債権債務につきましては、振当処理の要件を満たす場合は、振当処理を採用しております。

##### ヘッジ手段・ヘッジ対象及びヘッジの方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で、金利スワップ取引を利用しております。

また、外貨建営業債権債務に係る為替相場の変動によるリスクを回避する目的で、為替予約取引を利用しております。並びに、原材料の調達における相場変動によるリスクを回避する目的で、商品価格スワップ取引を利用しております。

##### ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ有効性の評価につきましては、原則として、ヘッジ開始時から有効性の判定時点までの期間におけるヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動累計を基礎としております。

ただし、特例処理によっている金利スワップ並びに振当処理によっている為替予約につきましては、有効性の評価を省略しております。

#### (7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却方法につきましては、効果の発現する見積期間(主として10年)を償却年数とし、定額法により償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための必要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「流動資産」の「受取手形及び売掛金」に含めていた「電子記録債権」及び「流動負債」の「支払手形及び買掛金」に含めていた「電子記録債務」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「受取手形及び売掛金」に表示していた78,701百万円は、「受取手形及び売掛金」75,067百万円、「電子記録債権」3,634百万円として、「流動負債」の「支払手形及び買掛金」に表示していた32,815百万円は、「支払手形及び買掛金」30,870百万円、「電子記録債務」1,945百万円として組み替えております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取保険金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「受取保険金」151百万円、「その他」325百万円は、「その他」476百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対する資産

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	7,894百万円	1,210百万円

2 貸出コミットメントライン契約

当社は、資金調達の効率化及び安定化を図るため取引銀行14行と貸出コミットメント契約を締結しております。連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
貸出コミットメントの総額	25,000百万円	25,000百万円
貸出実行残高	-	-
差引額	25,000	25,000

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	13,823百万円	- 百万円
土地	1,479	-
計	15,302	-

対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
長期借入金	1,400百万円	- 百万円

(1年以内に返済期限が到来するものを含んでおります。)

上記の他、関係会社の金融機関の借入の担保として、投資有価証券(前連結会計年度1百万円、当連結会計年度1百万円)を差し入れております。

また、風力発電事業を営む関係会社において、事業資産を担保とするプロジェクトファイナンスローンの残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	1,034百万円	22百万円

なお、当該関係会社の事業資産の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	3,404百万円	76百万円

4 受取手形譲渡による代金の留保分(未収入金)は次のとおりであります。これは当社に遡及義務が及ぶものであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	335百万円	- 百万円

## 5 偶発債務

## 金融機関借入金等に関する債務保証

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
Prime Meiden Ltd.	4,764百万円	- 百万円
MEIDEN INDIA PVT. LTD.	6	19
MEIDEN KOREA CO., LTD.	25	14
従業員	14	11
計	4,810	45

## 6 国庫補助金によって取得した資産

有形固定資産の取得原価から控除した国庫補助金の累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	3,093百万円	3,093百万円

## 7 損失が見込まれる受注契約に係るたな卸資産と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。損失の見込まれる受注損失引当金に対応するたな卸資産の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
仕掛品に係るもの	730百万円	452百万円

## 8 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	-	569百万円
電子記録債権	-	243
支払手形	-	36

(連結損益計算書関係)

## 1 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	581百万円	175百万円

## 2 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	31百万円	68百万円

## 3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	9,462百万円	9,402百万円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	2,560百万円	1,666百万円
組替調整額	359	480
税効果調整前	2,200	1,186
税効果額	671	359
その他有価証券評価差額金	1,528	826
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	2	4
組替調整額	21	27
税効果調整前	19	31
税効果額	1	9
繰延ヘッジ損益	21	22
為替換算調整勘定：		
当期発生額	1,087	305
組替調整額	-	54
為替換算調整勘定	1,087	360
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	77	1,023
組替調整額	1,008	820
税効果調整前	931	1,844
税効果額	284	568
退職給付に係る調整額	646	1,275
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	678	59
その他の包括利益合計	1,745	2,545

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	227,637	-	-	227,637
合計	227,637	-	-	227,637
自己株式				
普通株式	748	9	0	756
合計	748	9	0	756

(注) 自己株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加分であり、減少は、単元未満株式の買増請求による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	907	4.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	907	4.00	平成28年9月30日	平成28年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	907	利益剰余金	4.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	227,637	-	-	227,637
合計	227,637	-	-	227,637
自己株式				
普通株式	756	10	-	766
合計	756	10	-	766

(注) 自己株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加分であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	907	4.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	907	4.00	平成29年9月30日	平成29年11月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,134	利益剰余金	5.00	平成30年3月31日	平成30年6月28日

(注) 1株当たり配当額には、創業120周年記念配当1円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	10,105百万円	9,506百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	97	218
拘束性預金	-	50
現金及び現金同等物	10,008	9,236

2 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

- (1) 子会社が発行する転換社債の転換により、関係会社社債が1,724百万円減少した一方で、関係会社株式1,646百万円等が増加しております。
- (2) デット・エクイティ・スワップ方式による現物出資により、長期貸付金2,378百万円等が減少した一方で、関係会社株式が2,510百万円増加しております。

(リース取引関係)

(借手側)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度(平成29年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
(有形固定資産)その他	569	436	132
合計	569	436	132

(単位：百万円)

	当連結会計年度(平成30年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
(有形固定資産)その他	569	474	94
合計	569	474	94

(注) なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、連結財務諸表規則第15条の3において準用する財務諸表等規則第8条の6第2項の規定に基づき、支払利子込法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	37	37
1年超	94	56
合計	132	94

(注) なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、連結財務諸表規則第15条の3において準用する財務諸表等規則第8条の6第2項の規定に基づき、支払利子込法により算定しております。

支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
支払リース料	37	37
減価償却費相当額	37	37

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、沼津事業所に設置しております自家発電、省エネシステムPR用NAS電池システム(工具、器具及び備品)であります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用につきましては短期的な預金等に限定し、また、資金調達につきましては銀行借入及びコマーシャル・ペーパーや社債の発行により調達する方針であります。デリバティブは、後述する相場変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建営業債権は、為替相場の変動リスクに晒されておりますが、同じ外貨建営業債務の残高の範囲内にあるものを除き、原則として為替予約取引を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務又は資本提携に関連する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原材料等の購入に伴う外貨建のものがあり、為替相場の変動リスクに晒されておりますが、同じ外貨建営業債権の残高の範囲内にあるものを除き、原則として為替予約取引を利用してヘッジしております。

短期借入金及びコマーシャル・ペーパーは、主に営業取引に係る資金調達であり、社債及び長期借入金は設備投資及び運転資金に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、デリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。

デリバティブ取引は、外貨建営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引、原材料調達に係る商品価格の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした商品価格スワップ取引であります。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等につきましては、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (6)重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権につきましては、与信管理規程に従い、取引先ごとの残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、契約先金融機関の信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

外貨建営業債権債務に係る為替相場の変動によるリスクは、為替予約取引を利用してヘッジしております。また、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために金利スワップ取引を利用しております。並びに、原材料調達に係る商品価格の変動リスクを抑制するために、商品価格スワップ取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券につきましては、定期的到时価や発行体の財務状況を把握しております。

デリバティブ取引につきましては、取引の目的・内容・決裁者等をデリバティブ取引管理規程及び決裁規程に定めており、更に具体的には運用ルール等によって取引及びリスク管理を行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、適時に資金繰計画を作成・更新するなどの方法により管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等につきましては、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額につきましては、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2.参照)。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	10,105	10,105	-
(2) 受取手形及び売掛金	75,067	75,067	-
(3) 電子記録債権	3,634	3,634	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	18,459	18,459	-
(5) 長期貸付金(*1)	32	33	1
資産計	107,299	107,301	1
(1) 支払手形及び買掛金	30,870	30,870	-
(2) 電子記録債務	1,945	1,945	-
(3) 短期借入金	5,391	5,391	-
(4) コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000	-
(5) 未払金	13,046	13,046	-
(6) 未払法人税等	1,126	1,126	-
(7) 社債	-	-	-
(8) 長期借入金(*1)	24,974	24,948	25
負債計	92,354	92,328	25
デリバティブ取引	49	49	-

(\*1) 1年内回収予定の長期貸付金や、1年内返済予定の長期借入金を「長期貸付金」「長期借入金」に含めておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	9,506	9,506	-
(2) 受取手形及び売掛金	87,323	87,323	-
(3) 電子記録債権	6,887	6,887	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	19,962	19,962	-
(5) 長期貸付金(*1)	35	35	0
資産計	123,715	123,716	0
(1) 支払手形及び買掛金	36,840	36,840	-
(2) 電子記録債務	2,659	2,659	-
(3) 短期借入金	6,060	6,060	-
(4) コマーシャル・ペーパー	6,000	6,000	-
(5) 未払金	14,296	14,296	-
(6) 未払法人税等	3,240	3,240	-
(7) 社債	5,000	5,013	13
(8) 長期借入金(*1)	23,044	22,999	44
負債計	97,141	97,110	31
デリバティブ取引	13	13	-

(\*1) 1年内回収予定の長期貸付金や、1年内返済予定の長期借入金を「長期貸付金」「長期借入金」に含めておりません。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (4) 有価証券及び投資有価証券  
有価証券及び投資有価証券の時価につきましては、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項につきましては、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。
- (5) 長期貸付金  
長期貸付金の時価につきましては、同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

負 債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金、(4) コマーシャル・ペーパー、(5) 未払金、(6) 未払法人税等  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (7) 社債  
当社の発行する社債の時価は、市場価格に基づき算定しております。
- (8) 長期借入金  
長期借入金の時価につきましては、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。金利スワップの特例処理対象の変動金利による長期借入金は、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建営業債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該外貨建営業債権債務の時価に含めて記載しております。なお、デリバティブ取引につきましては、注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式等	8,519	1,773

これらにつきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	10,105	-	-	-
受取手形及び売掛金	75,067	-	-	-
電子記録債権	3,634	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの	-	-	-	-
長期貸付金	1	7	16	7
合計	88,808	7	16	7

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,506	-	-	-
受取手形及び売掛金	87,323	-	-	-
電子記録債権	6,887	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの	-	-	-	-
長期貸付金	2	8	16	7
合計	103,720	8	16	7

4. 社債、長期借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	2,547	2,244	3,198	4,667	9,387	2,931

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	-	-	-	-	5,000	-
長期借入金	2,136	3,090	4,550	9,270	450	3,547

その他有利子負債につきましては、連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位: 百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	17,245	6,382	10,862
小計	17,245	6,382	10,862
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	1,122	1,314	191
その他	92	92	-
小計	1,214	1,406	191
合計	18,459	7,789	10,670

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位: 百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	19,677	7,695	11,982
小計	19,677	7,695	11,982
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	268	393	124
その他	16	16	-
小計	285	410	124
合計	19,962	8,105	11,857

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位: 百万円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
422	359	-

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位: 百万円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
648	480	0

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券について46百万円(関係会社株式45百万円、その他有価証券0百万円)減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 買建				
	日本円	973	273	68	68
	シンガポールドル	825	191	13	13

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 売建				
	日本円	41	-	0	0
	買建				
	日本円	323	-	18	18
	シンガポールドル	177	-	4	4

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計 の方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	195	-	9
	ユーロ	売掛金	43	-	0
	買建				
	米ドル	買掛金	5	-	0
	カナダドル	買掛金	15	-	0
	ユーロ	買掛金	33	-	1
	イギリスポンド	買掛金	11	-	0
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	88	-	(*1)
	オーストラリアドル	売掛金	21	-	-
	シンガポールドル	売掛金	23	-	-
	ユーロ	売掛金	59	-	(*1)
	買建				
	スイスフラン	買掛金	119	-	(*1)
	シンガポールドル	買掛金	117	-	(*1)
	カナダドル	買掛金	15	-	(*1)

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(\*1) 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金及び買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建				
	米ドル	買掛金	5	-	0
	人民元	買掛金	3	-	0
	人民元	買掛金	44	-	(*1)
	タイパーツ	買掛金	35	-	(*1)

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(\*1) 一部の為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該買掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引	長期借入金	639	540	23
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引	長期借入金	2,100	700	(*1)

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(\*1) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引	長期借入金	700	700	(*1)

(\*1) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

退職一時金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。

また、一部の連結子会社は、複数事業主制度の厚生年金基金制度に加入しておりますが、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することが出来ないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
退職給付債務の期首残高	51,885		50,781	
勤務費用	1,992		2,015	
利息費用	438		426	
数理計算上の差異の発生額	11		925	
退職給付の支払額	3,505		2,730	
確定拠出年金制度導入による増減	39		-	
その他	1		-	
退職給付債務の期末残高	50,781		49,567	

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
年金資産の期首残高	9,338		8,739	
期待運用収益	280		262	
数理計算上の差異の発生額	66		98	
事業主からの拠出額	88		74	
退職給付の支払額	920		835	
確定拠出年金制度導入による増減	21		-	
その他	41		5	
年金資産の期末残高	8,739		8,333	

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
退職給付に係る負債の期首残高	1,491		1,672	
退職給付費用	386		405	
退職給付の支払額	74		161	
制度への拠出額	100		88	
確定拠出年金制度導入による増減	32		-	
その他	1		-	
退職給付に係る負債の期末残高	1,672		1,827	

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	12,291	11,153
年金資産	9,724	9,406
	2,566	1,747
非積立型制度の退職給付債務	41,148	41,313
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	43,714	43,060
退職給付に係る負債	43,714	43,060
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	43,714	43,060

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	1,992	2,015
利息費用	438	426
期待運用収益	280	262
数理計算上の差異の費用処理額	1,027	825
過去勤務費用の費用処理額	13	4
簡便法で計算した退職給付費用	386	405
確定給付制度に係る退職給付費用	3,579	3,406
退職給付制度改定益(注)	38	-

(注) 特別利益に計上しております。

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
過去勤務費用	0	4
数理計算上の差異	931	1,849
合計	931	1,844

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	62	58
未認識数理計算上の差異	6,507	4,658
合計	6,444	4,599

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	55%	53%
株式	32%	34%
生保一般勘定	13%	13%
現金及び預金	0%	0%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	0.8%	0.8%
長期期待運用収益率	3.0%	3.0%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度（確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度を含みます。）への要拠出額は、前連結会計年度789百万円、当連結会計年度791百万円でありました。

4. その他の退職給付に関する事項

退職一時金制度から確定拠出年金制度への一部移行に伴う影響額(税効果控除前)は次のとおりであります。

(百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の減少	135	-
未認識数理計算上の差異	18	-
未認識過去勤務費用	14	-

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	1,806百万円	2,080百万円
退職給付に係る負債	13,285	13,057
投資有価証券等の有税評価減	1,195	1,202
貸倒引当金繰入額限度超過額	62	45
たな卸資産評価減及び受注損失引当金	469	480
製品保証引当金	194	253
環境対策引当金	247	198
合併による土地評価差額	267	267
未実現利益の消去	251	270
繰越欠損金	1,226	3,378
その他	1,328	1,663
繰延税金資産小計	20,336	22,898
評価性引当額	2,654	4,281
繰延税金資産合計	17,681	18,616
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	60	60
特別償却準備金	73	31
適格分社型分割により取得した株式の投資簿価調整	5	5
その他有価証券評価差額金	3,244	3,604
退職給与負債調整勘定	820	806
その他	61	26
繰延税金負債合計	4,266	4,536
繰延税金資産の純額	13,414	14,080

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.54%	30.54%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.92	0.77
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.29	0.26
住民税均等割	1.73	1.35
持分法投資利益又は損失	2.18	2.68
評価性引当額の増減	1.43	0.05
海外子会社の実効税率差異	2.98	0.28
試験研究費等の税額控除	5.42	6.00
その他	2.88	1.82
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.99	31.23

(賃貸等不動産関係)

当社は東京都及びその他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸商業施設を所有しております。

これら賃貸等不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	17,177	16,370
期中増減額	807	820
期末残高	16,370	15,549
期末時価	51,841	52,759

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 賃貸等不動産の前連結会計年度増減 807百万円の主な減少は減価償却によるものであります。当連結会計年度増減 820百万円の主な減少は減価償却によるものであります。

3. 期末の時価は、社外の不動産鑑定士による鑑定評価に基づく金額であります。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
賃貸等不動産		
営業収益	3,452	3,463
営業原価	2,111	2,126
営業利益	1,340	1,337

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別に事業部を置くなどして、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「社会インフラ事業」、「産業システム事業」、「保守・サービス事業」及び「不動産事業」の4つを報告セグメントとしております。

報告セグメントの名称	事業内容
社会インフラ事業	発変電システム等の社会インフラに関連する製品・サービスを提供する事業
産業システム事業	一般製造業向けを中心に、コンポーネント製品、動力計測システム製品及び無人搬送車等の製品・サービスを提供する事業
保守・サービス事業	メンテナンス事業
不動産事業	不動産の賃貸に関する事業

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

一部の連結子会社は、平成30年3月期より決算日を12月31日から3月31日に変更しており、当連結会計年度は平成29年1月1日から平成30年3月31日までの15か月間を連結しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は損失ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計	調整額	連結財務 諸表 計上額
	社会イン フラ事業	産業シス テム事業	保守・ サービス 事業	不動産 事業	小計				
売上高									
外部顧客への売上高	123,352	51,329	32,010	3,188	209,879	10,261	220,141	-	220,141
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,177	4,223	1,034	263	8,699	8,893	17,593	(17,593)	-
計	126,530	55,552	33,044	3,452	218,579	19,155	237,734	(17,593)	220,141
セグメント利益	3,297	2,465	3,781	1,340	10,885	464	11,349	(2,500)	8,849
セグメント資産	109,541	40,623	24,271	16,526	190,962	7,032	197,995	49,651	247,646
その他の項目									
減価償却費	3,325	1,431	242	943	5,942	178	6,121	2,542	8,663
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,334	1,168	299	119	3,922	151	4,073	3,281	7,355

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他の製品販売、従業員の福利厚生サービス、化成製品等を提供する事業等を含んでおります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計	調整額	連結財務 諸表 計上額
	社会イン フラ事業	産業シス テム事業	保守・ サービス 事業	不動産 事業	小計				
売上高									
外部顧客への売上高	144,136	51,783	32,869	3,199	231,989	9,843	241,832	-	241,832
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,913	4,217	1,093	263	8,487	8,484	16,971	(16,971)	-
計	147,049	56,000	33,962	3,463	240,476	18,327	258,804	(16,971)	241,832
セグメント利益	4,080	4,384	3,587	1,337	13,389	497	13,886	(2,505)	11,381
セグメント資産	126,051	45,163	25,597	15,696	212,509	7,632	220,142	44,315	264,457
その他の項目									
減価償却費	3,555	1,457	268	935	6,217	163	6,380	2,516	8,897
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,509	1,902	317	60	4,791	121	4,912	2,672	7,584

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他の製品販売、従業員の福利厚生サービス、化成製品等を提供する事業等を含んでおります。

#### 4. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額の差異の調整

(単位：百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	218,579	240,476
「その他」の区分の売上高	19,155	18,327
セグメント間取引消去	17,593	16,971
連結財務諸表の売上高	220,141	241,832

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	10,885	13,389
「その他」の区分の利益	464	497
セグメント間取引消去	748	672
たな卸資産の調整額	1	3
その他の調整額(注)	3,250	3,173
連結財務諸表の営業利益	8,849	11,381

(注) その他の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない研究開発部門等で行っている研究開発にかかる費用等であります。

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	190,962	212,509
「その他」の区分の資産	7,032	7,632
全社資産(注)	72,119	76,492
その他の調整額	22,467	32,177
連結財務諸表の資産合計	247,646	264,457

(注) 全社資産は、提出会社における余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(関係会社株式を除いた投資有価証券)及び研究開発部門に係る資産等であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	5,942	6,217	178	163	2,542	2,516	8,663	8,897
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,922	4,791	151	121	3,281	2,672	7,355	7,584

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に全社の情報システムの設備投資額であります。

#### 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

#### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 売上高

(単位：百万円)

日 本	アジア	その他の地域	合 計
161,410	42,166	16,564	220,141

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

##### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への外部売上高が連結損益計算書の売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

#### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	その他の地域	合計
167,678	55,719	18,434	241,832

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	その他の地域	合計
57,028	6,044	1,927	64,999

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客への外部売上高が連結損益計算書の売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	社会インフラ事業	産業システム事業	保守・サービス事業	不動産事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	-	-	-	-	89	89

(注) 「全社・消去」の金額は、セグメントに帰属しない全社資産に係る減損損失であります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	社会インフラ事業	産業システム事業	保守・サービス事業	不動産事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	78	-	-	-	-	-	78
当期末残高	1,055	-	-	-	-	-	1,055

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	社会インフラ事業	産業システム事業	保守・サービス事業	不動産事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	224	-	-	-	-	-	224
当期末残高	5,738	-	-	-	-	-	5,738

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Prime Meiden Ltd.	インド	2,024	電力用変圧器 製造販売及び 変電プロジェ クト施工	(所有) 直接 60.0	債務保証 転換社債の 転換 資金の貸付 増資の引受 役員の兼任	債務保証 転換社債の 転換 資金の貸付 (注) 増資の引受 (注)	4,764 1,646 2,378 2,510		

(注) 増資の引受につきましては、デット・エクイティ・スワップ方式による貸付金の現物出資であります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	322円80銭	353円65銭
1株当たり当期純利益金額	25円31銭	31円10銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	5,743	7,056
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	5,743	7,056
普通株式の期中平均株式数(千株)	226,885	226,876

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(その他の注記)

(訴訟について)

当社は、シンガポール国際仲裁センター（S I A C）における仲裁の申立を受けました。その概要は次のとおりであります。

1．仲裁申立の概要及び経緯

当社がインドのPrime Meiden Limited（以下P M L社）及びその株主との間で、2016年6月1日に締結した株式買取及び株主間契約（以下契約書）に関し、当社に契約違反等があったとして賠償等を請求する仲裁申立が、2018年1月31日付でS I A Cの仲裁廷に受理されました。

2．仲裁を申し立てた者の概要

- (1) 名称 PCI Limited（P M L社の元親会社。以下P C I社）ほか6名のP M L社株主
- (2) P C I社所在地 New Delhi, India
- (3) P C I社代表者氏名 Mr. Surinder Mehta

3．仲裁申立の内容及び損害賠償額

当社がP M L社の会社価値を毀損し、その結果、株主に損害を与えた等として、12,597百万インドルピー（約207億円）（平成30年3月末の為替レートで換算）の金銭を要求しております。

4．今後の対応

本申立の内容は契約書に則っておらず不適切であり、当社としては契約書に則り、事実関係や法的根拠を説明することにより、早期の仲裁申立却下に向け真摯に対応してまいります。

現時点において、本仲裁が当社の連結業績に与える影響等はないものと考えております。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

(単位：百万円)

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
株式会社明電舎	第1回無担保社債	平成29年 7月20日	-	5,000	0.38	無担保社債	平成34年 7月20日
合計	-	-	-	5,000	-	-	-

(注) 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

(単位：百万円)

1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
-	-	-	-	5,000

【借入金等明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期末残高	平均利率 (%) (注1)	返済期限	摘要
短期借入金	5,391	6,060	4.6	-	
1年以内に返済予定の長期借入金	2,547	2,136	0.5	-	
1年以内に返済予定のリース債務	9	13	-	-	(注2)
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く)	22,427	20,907	0.5	平成31年4月～ 平成38年8月	(注3)
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く)	423	510	-	平成31年4月～ 平成57年6月	(注2) (注3)
その他有利子負債					
コマーシャル・ペーパー	15,000	6,000	0.0	-	
従業員預り金	5,176	5,452	0.5	-	(注4)
グループ間ファイナンス取引 (1年内)	38	45	0.1	-	(注4)
合計	51,014	41,126	-	-	-

- (注) 1. 「平均利率」につきましては、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2. リース債務の平均利率につきましては、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。  
 3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金	3,090	4,550	9,270	450
リース債務	15	15	11	12

4. その他の有利子負債(従業員預り金、グループ間ファイナンス取引)は、連結貸借対照表上、流動負債「その他」に含めております。なお、従業員預り金は返済期限が定められていないため返済期限は記載しておりません。また、グループ間ファイナンス取引とは、キャッシュマネジメントシステム(CMS)を導入することにより発生した非連結子会社からの預り金であります。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計金額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

(当連結会計年度における四半期情報等)

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	41,290	90,738	137,707	241,832
税金等調整前当期純利益金額又は 税金等調整前四半期純損失金額 (百万円) ( )	3,225	5,586	6,482	10,272
親会社株主に帰属する当期純利益 金額又は親会社株主に帰属する四 半期純損失金額 (百万円) ( )	2,368	4,231	5,130	7,056
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 (円) ( )	10.44	18.65	22.61	31.10

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 (円) ( )	10.44	8.21	3.96	53.72

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,776	3,822
受取手形	1 838	1, 7 2,918
電子記録債権	2,968	1, 7 6,059
売掛金	1 50,883	1 57,605
製品	1,452	1,276
仕掛品	24,112	25,165
原材料及び貯蔵品	330	431
繰延税金資産	2,362	2,913
その他	1, 4 6,485	1 5,557
貸倒引当金	123	75
<b>流動資産合計</b>	<b>94,086</b>	<b>105,676</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	3, 6 32,981	6 31,663
構築物	1,322	1,234
機械及び装置	6 3,161	6 4,039
車両運搬具	67	78
工具、器具及び備品	1,547	1,316
土地	3 11,523	11,513
建設仮勘定	1,821	1,483
その他	-	10
<b>有形固定資産合計</b>	<b>52,424</b>	<b>51,339</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	4,762	4,753
のれん	696	649
その他	73	71
<b>無形固定資産合計</b>	<b>5,531</b>	<b>5,474</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3 18,770	3 20,255
関係会社株式	22,744	22,991
長期貸付金	1 2,371	1 1,897
繰延税金資産	6,321	6,224
その他	1 1,237	1 1,429
貸倒引当金	40	38
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>51,405</b>	<b>52,758</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>109,361</b>	<b>109,572</b>
<b>資産合計</b>	<b>203,447</b>	<b>215,249</b>

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	1,440	1,185
電子記録債務	1,478	1,890
買掛金	1 19,776	1 24,441
短期借入金	2, 3 2,426	2 2,114
コマーシャル・ペーパー	15,000	6,000
未払金	1 11,048	1 12,414
未払法人税等	463	2,492
前受金	1 9,097	1 8,679
預り金	1 15,143	1 18,399
賞与引当金	3,525	4,288
製品保証引当金	596	786
受注損失引当金	375	338
その他	1 5,455	1 6,277
流動負債合計	85,827	89,308
固定負債		
社債	-	5,000
長期借入金	3 21,514	19,400
退職給付引当金	28,569	29,645
環境対策引当金	816	654
その他	1 3,391	3,508
固定負債合計	54,291	58,207
負債合計	140,119	147,516
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,070	17,070
資本剰余金		
資本準備金	5,000	5,000
その他資本剰余金	4,381	4,381
資本剰余金合計	9,381	9,381
利益剰余金		
利益準備金	3,296	3,296
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	139	139
特別償却準備金	168	72
別途積立金	8,263	8,263
繰越利益剰余金	17,926	21,621
その他利益剰余金合計	26,497	30,096
利益剰余金合計	29,794	33,392
自己株式	235	239
株主資本合計	56,010	59,604
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,323	8,128
繰延ヘッジ損益	5	0
評価・換算差額等合計	7,317	8,128
純資産合計	63,328	67,732
負債純資産合計	203,447	215,249

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	1 148,371	1 164,487
売上原価	1 114,567	1 127,327
売上総利益	33,804	37,160
販売費及び一般管理費	1, 2 31,771	1, 2 32,826
営業利益	2,032	4,333
営業外収益		
受取利息	1 121	1 55
受取配当金	1 2,932	1 3,328
その他	1 1,592	1 1,469
営業外収益合計	4,645	4,853
営業外費用		
支払利息	1 343	1 260
その他	1 2,638	1 3,052
営業外費用合計	2,981	3,312
経常利益	3,696	5,875
特別利益		
投資有価証券売却益	359	480
その他	35	6
特別利益合計	395	487
特別損失		
固定資産除却損	94	-
減損損失	89	-
関係会社株式評価損	308	272
債務保証損失引当金繰入額	143	-
その他	30	2
特別損失合計	665	274
税引前当期純利益	3,426	6,088
法人税、住民税及び事業税	332	1,481
法人税等調整額	334	807
法人税等合計	1	674
当期純利益	3,425	5,413

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金				利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
						固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	17,070	5,000	4,381	9,381	3,296	139	308	8,263	16,176	28,184
当期変動額										
剰余金の配当									1,815	1,815
当期純利益									3,425	3,425
固定資産圧縮積立金の取崩						0			0	
特別償却準備金の取崩							139		139	
自己株式の取得										
自己株式の処分			0	0						
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計			0	0		0	139		1,749	1,610
当期末残高	17,070	5,000	4,381	9,381	3,296	139	168	8,263	17,926	29,794

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	232	54,403	5,811	3	5,808	60,211
当期変動額						
剰余金の配当		1,815				1,815
当期純利益		3,425				3,425
固定資産圧縮積立金の取崩						
特別償却準備金の取崩						
自己株式の取得	3	3				3
自己株式の処分	0	0				0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			1,511	1	1,509	1,509
当期変動額合計	3	1,607	1,511	1	1,509	3,116
当期末残高	235	56,010	7,323	5	7,317	63,328

当事業年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計	
					固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	17,070	5,000	4,381	9,381	3,296	139	168	8,263	17,926	29,794
当期変動額										
剰余金の配当									1,815	1,815
当期純利益									5,413	5,413
固定資産圧縮積立金の取崩										
特別償却準備金の取崩							96		96	
自己株式の取得										
自己株式の処分										
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計							96		3,694	3,598
当期末残高	17,070	5,000	4,381	9,381	3,296	139	72	8,263	21,621	33,392

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	235	56,010	7,323	5	7,317	63,328
当期変動額						
剰余金の配当		1,815				1,815
当期純利益		5,413				5,413
固定資産圧縮積立金の取崩						
特別償却準備金の取崩						
自己株式の取得	4	4				4
自己株式の処分						
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			804	5	810	810
当期変動額合計	4	3,594	804	5	810	4,404
当期末残高	239	59,604	8,128	0	8,128	67,732

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

### 3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 製品・半製品・仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

#### (2) 原材料・貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

### 4. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)、当社の不動産事業部門(東京・大崎)の建物附属設備、構築物及び機械装置並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物につきましては、定額法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額につきましては、法人税法に規定する方法と同一の基準を採用しております。

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアにつきましては、社内における利用可能期間(3年～5年)に基づく定額法、それ以外の無形固定資産につきましては、定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引及び1契約金額が3百万円以下のリース取引につきましては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### 5. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権につきましては貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権につきましては個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、従業員賞与の支給実績を勘案した支給見込額を計上しております。

#### (3) 製品保証引当金

当社が納入した製品の無償補修費用の支出に備えるため、無償補修費用を個別に見積り算出した額を計上しております。

#### (4) 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、翌事業年度以降の損失発生見込額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法につきましては、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（10年）による按分額を費用処理しております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（14～15年）による按分額を発生翌事業年度から費用処理しております。

(6) 環境対策引当金

法令に基づいた有害物質の処理など、環境対策に係る支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

6. 収益及び費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事につきましては、工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を適用しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

金利スワップにつきましては、特例処理の要件を満たす場合は、特例処理を採用しております。

また、為替予約が付されている外貨建営業債権債務につきましては、振当処理の要件を満たす場合は、振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段・ヘッジ対象及びヘッジの方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で、金利スワップ取引を利用しております。

また、外貨建営業債権債務に係る将来の為替相場の変動によるリスクを回避する目的で、為替予約取引を利用しております。

(3) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ有効性の評価につきましては、原則として、ヘッジ開始時から有効性の判定時点までの期間におけるヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動累計を基礎として行っております。

ただし、特例処理によっている金利スワップ及び振当処理によっている為替予約につきましては、有効性の評価を省略しております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

「電子記録債権」及び「電子記録債務」の表示方法は、従来、貸借対照表上、「受取手形」(前事業年度2,968百万円)及び「支払手形」(前事業年度1,478百万円)に含めて表示しておりましたが、重要性が増したため、当事業年度より、「電子記録債権」(当事業年度6,059百万円)及び「電子記録債務」(当事業年度1,890百万円)として表示しております。

(貸借対照表関係)

## 1 関係会社に対する資産・負債

(関係会社に対するもので区分掲記したものを除いております。)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	7,200百万円	9,498百万円
長期金銭債権	2,484	2,008
短期金銭債務	15,951	19,604
長期金銭債務	3	-

## 2 貸出コミットメントライン契約

当社は、資金調達の効率化及び安定化を図るため、取引銀行14行と貸出コミットメント契約を締結しております。貸出コミットメントに係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
貸出コミットメントの総額	25,000百万円	25,000百万円
貸出実行残高	-	-
差引額	25,000	25,000

## 3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	13,823百万円	-百万円
土地	1,479	-
計	15,302	-

対応する債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
長期借入金	1,400百万円	-百万円

(1年以内に返済期限が到来するものを含んでおります。)

上記の他、関係会社の金融機関の借入の担保として、投資有価証券(前事業年度1百万円、当事業年度1百万円)を差し入れております。

## 4 受取手形譲渡による代金の留保分(未収入金)は次のとおりであります。これは当社に遡及義務の及ぶものではありません。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	335百万円	-百万円

5 偶発債務

金融機関借入金等に対する債務保証

	前事業年度 (平成29年3月31日)		当事業年度 (平成30年3月31日)
Prime Meiden Ltd.	4,764百万円	Prime Meiden Ltd.	4,899百万円
上海明電舎長城開関有限公司	673	TRIDELTA MEIDENSHA GmbH	548
TRIDELTA MEIDENSHA GmbH	563	上海明電舎長城開関有限公司	395
MEIDEN MALAYSIA SDN.BHD.	410	明電太平洋(中国)有限公司	135
明電太平洋(中国)有限公司	276	明電舎(上海)企業管理有限公司	111
その他8件	461	その他7件	250
計	7,148	計	6,340

なお、当社は金融機関との間に、風力発電事業を営む関係会社を借入人とするスポンサー・サポート契約を締結しております。

6 国庫補助金等によって取得した資産

有形固定資産の取得原価から控除した国庫補助金の累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
	247百万円	247百万円

7 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	- 百万円	353百万円
電子記録債権	-	242

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	15,238百万円	売上高	17,067百万円
仕入高	30,981	仕入高	32,562
販売費及び一般管理費	2,189	販売費及び一般管理費	2,234
営業取引以外の取引高	3,688	営業取引以外の取引高	3,936

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
従業員給料及び手当	7,528百万円	7,186百万円
賞与及び賞与引当金繰入額	3,580	3,892
退職給付費用	1,292	1,219
減価償却費	2,355	2,378
研究開発費	3,299	4,134

おおよその割合

販売費	53%	54%
一般管理費	47	46

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式等(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式 22,547百万円、関連会社株式 443百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式22,301百万円、関連会社株式443百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>(繰延税金資産)</b>		
賞与引当金	1,078百万円	1,300百万円
退職給付引当金	8,659	8,908
投資有価証券等の有税評価減	1,627	1,716
貸倒引当金繰入限度超過額	49	34
たな卸資産評価減及び受注損失引当金	409	430
製品保証引当金	181	238
環境対策引当金	247	198
合併による土地評価差額	267	267
分割による子会社株式	1,377	1,377
その他	939	1,219
繰延税金資産小計	14,838	15,692
評価性引当額	2,000	2,107
繰延税金資産合計	12,837	13,584
<b>(繰延税金負債)</b>		
固定資産圧縮積立金	60	60
特別償却準備金	73	31
適格分社型分割により取得した株式の投資簿価調整	5	5
その他有価証券評価差額金	3,184	3,535
退職給与負債調整勘定	820	806
その他	8	6
繰延税金負債合計	4,154	4,446
繰延税金資産の純額	8,683	9,138

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.54%	30.54%
<b>(調整)</b>		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.60	0.96
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	22.48	14.52
住民税均等割	2.29	1.25
評価性引当額の増減	0.72	1.77
過年度法人税等	1.71	0.27
税額控除	12.88	9.76
その他	1.96	1.11
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.05	11.08

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額 (注)	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	32,981	901	58	2,161	31,663	41,073
	構築物	1,322	77	2	162	1,234	3,832
	機械及び装置	3,161	2,302	8	1,415	4,039	22,844
	車両運搬具	67	48	0	37	78	370
	工具、器具及び 備品	1,547	606	1	835	1,316	12,893
	土地	11,523	-	9	-	11,513	-
	建設仮勘定	1,821	3,608	3,946	-	1,483	-
	その他	-	10	-	0	10	0
	計	52,424	7,555	4,027	4,612	51,339	81,014
無形固定資産	ソフトウェア	4,762	1,919	0	1,928	4,753	16,736
	のれん	696	-	-	46	649	278
	その他	73	-	0	1	71	124
	計	5,531	1,919	0	1,976	5,474	17,139

(注) 1. 機械及び装置の当期増加額の主なものは、短絡試験用発電機761百万円であります。

2. ソフトウェアの当期増加額の主なものは、販売用ソフトウェアの開発425百万円であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	163	-	49	114
賞与引当金	3,525	4,288	3,525	4,288
製品保証引当金	596	700	511	786
受注損失引当金	375	338	375	338
環境対策引当金	816	-	162	654

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで	定時株主総会	6月中
基準日	3月31日	剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株		
単元未満株式の買取り	取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
	株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
	取次所		
	買取り手数料	株式の売買の委託手数料相当額として別途定める金額	
単元未満株式の買増し	取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
	株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
	取次所		
	買増し手数料	株式の売買の委託手数料相当額として別途定める金額	
公告掲載方法	電子公告により行います。(http://www.meidensha.co.jp/denshikoukoku)ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。		
株主に対する特典	該当事項はありません。		

(注) 当社の株主(実質株主を含む)は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することはできません。

1. 法令により定款をもってしても制限することができない権利
2. 株主割当による募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
3. 単元未満株式の買増請求をする権利
4. 平成30年5月14日開催の取締役会において、同年10月1日をもって、当社の単元株式数を1,000株から100株に変更することを決議しております。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第153期) (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年6月28日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月28日関東財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

(第154期第1四半期) (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)平成29年8月9日関東財務局長に提出

(第154期第2四半期) (自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)平成29年11月13日関東財務局長に提出

(第154期第3四半期) (自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)平成30年2月13日関東財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成29年6月30日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第6号(訴訟の提起)の規定に基づく臨時報告書

平成30年2月5日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書

平成30年2月5日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書

平成30年5月15日関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 6月27日

株式会社明電舎  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川 瀬 洋 人 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川 村 敦 印

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社明電舎の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社明電舎及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社明電舎の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社明電舎が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年 6月27日

株式会社明電舎  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川 瀬 洋 人 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川 村 敦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社明電舎の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第154期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社明電舎の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。